

平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書

(資料編)

平成24年7月  
長崎県公立大学法人

## (資料編) 目次

No	頁	内容	中期計画No.		
			4	5	6
1	1	資格試験合格者数			
2	2	語学研修先一覧	7	33	
3	3	留学生の受入・派遣状況	13		
4	4	募集人員	14		
5	7	入学志願者及び入学者数	14		
6	9	オープンキャンパス参加者数	14		
7	10	聴講生・科目等履修生の受入状況	15		
8	11	NICEキャンパス長崎について	17		
9	12	授業評価結果の概要	19		
10	23	FDの取組	20		
11	25	GPA制度について	20		
12	26	就職状況	24		
13	27	課外講座実施状況	24		
14	29	インターンシップ実施状況	24		
15	30	学長裁量研究実績一覧	26	30	32
16	33	市町との連携協定事業について	27	29	34
17	37	産学官連携の主な取組	27 35	32	34
18	47	アジア・国際戦略に関する取組	27		
19	49	受託研究・共同研究一覧	32	34	
20	50	長崎県立大学プロジェクト研究費について	32		
21	51	交流協定校一覧	33		
22	52	シンポジウム・フォーラム開催実績一覧	33		
23	53	東アジア研究所「東アジア研究ネットワーク」について	33		
24	54	公開講座・地域公開講座・学術講演会実施状況	36	38	

(資料編) 目次

No	頁	内容	中期計画No.		
25	55	教員の研究活動内容一覧	36		
26	66	長崎県公立大学法人の経営戦略	42		
27	69	長崎県公立大学法人行動規範	46		
—	70	用語解説	/		

※ 資料については既存の資料より抜粋し、活用しています。

## 資格試験合格者数

## ＜佐世保校＞

(単位:人)

項目		20年度	21年度	22年度	23年度
販売士検定	2級	7	12	9	9
	3級	23	21	8	17
ファイナンシャル・ プランニング技能検定	2級	5	6	1	3
	3級	32	28	14	47
日商簿記検定	2級	11	7	15	12
	3級	31	40	21	35
秘書技能検定	1級	-	-	-	-
	準1級	12	25	12	14
	2級	117	123	59	81
	3級	-	-	-	-
システム アドミニストレータ試験 (ITパスポート)	初級	7	13	19	9

## ＜シーボルト校＞

(単位:人)

項目		20年度	21年度	22年度	23年度
MOS (マイクロソフトスペシャリスト)	Excel	MCASに名称変更		36	32
	PowerPoint			-	-
	Word			-	22
MCAS		13	14	MOSへ名称変更	
秘書技能検定	1級	-	-	-	-
	準1級	-	-	1	-
	2級	-	-	18	13
	3級	-	-	-	-
システム アドミニストレータ試験 (ITパスポート)	初級	1	4	9	0
応用情報技術者資格		0	0	0	1
基本情報技術者資格		2	2	4	2
保健師国家試験		66	59	60	65
看護師国家試験		61	55	57	61
管理栄養士国家試験		28	36	35	38

語学研修先一覧
---------

平成23年度

	大学名	国名	備考
1	ウィスコンシン大学オシュコシュ校	アメリカ	
2	バンクーバー・アイランド大学	カナダ	旧名称: マラスピーナ大学
3	ランガラ・カレッジ	カナダ	
4	モナシュ大学	オーストラリア	
5	北京大学	中国	
6	華僑大学	中国	
7	西北大学	中国	
8	上海外国語大学	中国	
9	高麗大学校	韓国	

平成24年度追加校

	大学名	国名	備考
1	マウント・アイダ・カレッジ	アメリカ	
2	エドモンドコミュニティカレッジ	アメリカ	
3	セミオRELC	シンガポール	
4	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	イギリス	

## 外国人留学生の状況(H23年度)

## ○外国人留学生の受入状況(H23年度)

区分	佐世保校					シーボルト校					合計	
	中国	韓国	ベトナム	台湾	計	中国	韓国	米国	マレーシア他	計		
学部	交換留学生	6				6	4	6	2		12	18
	私費留学生	8		4	1	13	14			1	15	28
	計	14	0	4	1	19	18	6	2	1	27	46
大学院	交換留学生	7				7					0	7
	私費留学生	4	1			5	5			2	7	12
	計	11	1	0	0	12	5	0	0	2	7	19
研究生	交換留学生					0					0	0
	私費留学生	2				2					0	2
	計	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
合計	交換留学生	13	0	0	0	13	4	6	2	0	12	25
	私費留学生	14	1	4	1	20	19	0	0	3	22	42
	計	27	1	4	1	33	23	6	2	3	34	67

国別状況	中国	ベトナム	韓国	米国	台湾	マレーシア	ナイジェリア	合計
(人)	50	5	7	2	1	1	1	67
(%)	74.6%	7.5%	10.4%	3.0%	1.5%	1.5%	1.5%	100.0%

## &lt;参考&gt;

## ○交換留学 派遣状況(H23年度)

区分	佐世保校					シーボルト校					合計
	中国	韓国	ベトナム	台湾他	計	中国	韓国	米国	マレーシア他	計	
学部	4	1			5	6	8	4		18	23
大学院					0					0	0
合計	4	1	0	0	5	6	8	4	0	18	23

## 募集人員

&lt;経済学部&gt;

(単位:人)

区分			募集人員				
			経済学部				
			経済学科	地域政策 学科	流通・経営 学科		
20 年度 5 23 年度	AO入試	英語インテンシブ(10名)		6	6	6	
		中国語インテンシブ(5名)					
		アカウンティング(3名)					
	特別選抜 (推薦 入試)	県内	普通科		17	17	17
			専門学科		10	10	10
			総合学科		5	5	5
			離島高校		2	2	2
		県外	普通科等		10	10	10
			商業科・ 総合学科等		6	6	6
	一般選抜	前期日程		70	70	70	
		後期日程	Aコース		8	8	8
			Bコース		8	8	8
			Cコース		8	8	8
	特別選抜	帰国子女		若干名	若干名	若干名	
		社会人		若干名	若干名	若干名	
		私費外国人留学生		若干名	若干名	若干名	
	学科計			150	150	150	
	学部計			450			

## ＜国際情報学部＞

(単位:人)

区分			募集人員	
			国際情報学部	
			国際交流 学科	情報メディア学 科
20 年 度	AO入試	英語分野	8	5
		国際関係分野		
		比較文化分野		
		中国語分野		
23 年 度	特別選抜 (推薦 入試)	県内	20	12
		県外	5	2
	一般選抜	前期日程	40	34
		後期日程	7	7
	特別選抜	帰国子女	若干名	若干名
		社会人	若干名	若干名
		私費外国人留学生	若干名	若干名
学科計			80	60
学部計			140	



## ＜看護栄養学部＞

(単位:人)

区分				募集人員	
				看護栄養学部	
				看護学科	栄養健康学科
20 年度	特別選抜 (推薦 入試)	県内	衛生看護科以外	13	10 (区分なし)
			衛生看護科	1	
23 年度	一般選抜	前期日程		40	24
		後期日程		6	6
23 年度	特別選抜	帰国子女		若干名	若干名
		社会人		若干名	若干名
		私費外国人留学生		若干名	若干名
学科計				60	40
学部計				100	

## 入学志願者及び入学者数

【学部】[平成23年度]

(単位：人、倍、%)

区	分	定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D		
経済学部	経済学科	A O	6	11	10	6	1.8	1.7	1.7		
		推薦	50	78	78	55	1.6	1.6	1.4		
		一般入試(前期)	70	171	160	100	2.4	2.3	1.6		
		一般入試(後期)	24	342	102	40	14.3	4.3	2.6		
		一般入試計	94	513	262	140	5.5	2.8	1.9		
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—		
		社会人	若干名	—	—	—	—	—	—		
		留学生	若干名	18	17	7	3	—	—	2.4	
	小計	150	620	367	208	166	4.1	2.4	1.8		
	地域政策学科	A O	6	7	7	2	2	1.2	1.2	3.5	
		推薦	50	98	98	54	54	2.0	2.0	1.8	
		一般入試(前期)	70	220	196	101	80	3.1	2.8	1.9	
		一般入試(後期)	24	301	99	43	31	12.5	4.1	2.3	
		一般入試計	94	521	295	144	111	5.5	3.1	2.0	
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
		社会人	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
		留学生	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
	小計	150	626	400	200	167	4.2	2.7	2.0		
	流通・経営学科	A O	6	18	13	5	5	3.0	2.2	2.6	
		推薦	50	75	75	52	52	1.5	1.5	1.4	
		一般入試(前期)	70	446	416	100	63	6.4	5.9	4.2	
		一般入試(後期)	24	371	124	47	30	15.5	5.2	2.6	
		一般入試計	94	817	540	147	93	8.7	5.7	3.7	
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
		社会人	若干名	1	1	1	1	—	—	1.0	
		留学生	若干名	10	10	6	5	—	—	1.7	
	小計	150	921	639	211	156	6.1	4.3	3.0		
	学部計	450	2,167	1,406	619	489	4.8	3.1	2.3		
	国際情報学部	国際交流学科	A O	8	20	15	8	8	2.5	1.9	1.9
			推薦	25	48	48	24	24	1.9	1.9	2.0
			一般入試(前期)	40	84	80	44	36	2.1	2.0	1.8
			一般入試(後期)	7	79	20	15	14	11.3	2.9	1.3
			一般入試計	47	163	100	59	50	3.5	2.1	1.7
帰国子女			若干名	2	2	1	0	—	—	2.0	
社会人			若干名	—	—	—	—	—	—	—	
留学生			若干名	20	18	5	4	—	—	3.6	
小計		80	253	183	97	86	3.2	2.3	1.9		
情報メディア学科		A O	5	37	20	8	8	7.4	4.0	2.5	
		推薦	14	34	34	15	15	2.4	2.4	2.3	
		一般入試(前期)	34	103	99	38	31	3.0	2.9	2.6	
		一般入試(後期)	7	112	49	18	15	16.0	7.0	2.7	
		一般入試計	41	215	148	56	46	5.2	3.6	2.6	
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
		社会人	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
		留学生	若干名	2	2	1	0	—	—	2.0	
		小計	60	288	204	80	69	4.8	3.4	2.6	
	学部計	140	541	387	177	155	3.9	2.8	2.2		
看護栄養学部	看護学科	推薦	14	59	59	15	15	4.2	4.2	3.9	
		一般入試(前期)	40	111	110	44	44	2.8	2.8	2.5	
		一般入試(後期)	6	74	24	6	6	12.3	4.0	4.0	
		一般入試計	46	185	134	50	50	4.0	2.9	2.7	
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
		社会人	若干名	9	8	2	2	—	—	4.0	
		留学生	若干名	1	1	0	0	—	—	—	
	小計	60	254	202	67	67	4.2	3.4	3.0		
	栄養健康学科	推薦	10	36	36	13	13	3.6	3.6	2.8	
		一般入試(前期)	24	42	40	24	21	1.8	1.7	1.7	
		一般入試(後期)	6	57	17	8	7	9.5	2.8	2.1	
		一般入試計	30	99	57	32	28	3.3	1.9	1.8	
		帰国子女	若干名	—	—	—	—	—	—	—	
		社会人	若干名	2	2	0	0	—	—	—	
留学生		若干名	1	1	1	0	—	—	1.0		
小計	40	138	96	46	41	3.5	2.4	2.1			
学部計	100	392	298	113	108	3.9	3.0	2.6			
A O 計		31	93	65	29	29	3.0	2.1	2.2		
推薦 計		213	428	428	228	228	2.0	2.0	1.9		
一般入試(前期) 計		348	1,177	1,101	451	354	3.4	3.2	2.4		
一般入試(後期) 計		98	1,336	435	177	126	13.6	4.4	2.5		
一般入試 合計		446	2,513	1,536	628	480	5.6	3.4	2.4		
帰国子女 計		若干名	2	2	1	0	—	—	0.0		
社会人 計		若干名	12	11	3	3	—	—	3.7		
留学生 計		若干名	52	49	20	12	—	—	2.5		
合計		690	3,100	2,091	909	752	4.5	3.0	2.3		
看護学科3年次編入学		10	15	11	6	3	1.5	1.1	1.8		
総合計		700	3,115	2,102	915	755	4.5	3.0	2.3		

※A O入試の受験者数は2次選考受験者数

## 【 大学院 】

[平成23年度]

(単位：人、倍、%)

区 分		定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D		
経済学研究科	産業経済・経済開発専攻(修士課程)	12	15	15	14	11	1.3	1.3	1.1		
国際情報学 研究科	国際交流学専攻(修士課程)	6	4	4	4	4	0.7	0.7	1.0		
	情報メディア学専攻(修士課程)	4	2	2	2	1	0.5	0.5	1.0		
	研究科 計	10	6	6	6	5	0.6	0.6	1.0		
人間健康科学 研究科	看護学専攻(修士課程)	一般選抜	8	0	—	—	0.5	0.5	—		
		社会人特別選抜		4	4	3			3	1.3	
		専攻 計		4	4	3			3	1.3	
	栄養科学専攻	博士 前期課程	一般選抜	8	5	5	5	0.6	0.6	1.0	
			社会人特別選抜	若干名	0	—	—	—	—	—	
			外国人留学生特別選抜	若干名	1	1	1	1	—	—	1.0
		前期課程 計	8	6	6	6	6	0.8	0.8	1.0	
		博士 後期課程	一般選抜	3	1	1	1	1	0.3	0.3	1.0
			外国人留学生特別選抜	若干名	0	—	—	—	—	—	—
	後期課程 計		3	1	1	1	1	0.3	0.3	1.0	
	研究科 計		19	11	11	10	10	0.6	0.6	1.1	
	大学院 計		41	32	32	30	26	0.8	0.8	1.1	

## オープンキャンパス参加者数

(単位:人、校)

年度	キャンパス名	開催日	区分	県内 高校生	県外 高校生	その他 (保護者等)	計	合計
20 年度	佐世保校	7月20日	参加者	169	54	139	362	1134
			(高校)	(38)	(36)	—		
	シーボルト校	7月20日	参加者	464	121	187	772	
			(高校)	(23)	(23)	—		
21 年度	佐世保校	7月19日	参加者	196	92	159	447	1311
			(高校)	(46)	(55)	—		
	シーボルト校	7月19・20日	参加者	421	123	320	864	
			(高校)	(58)	(69)	—		
22 年度	佐世保校	7月18日	参加者	188	83	140	411	1496
			(高校)	(42)	(49)	—		
	シーボルト校	7月18・19日	参加者	633	151	301	1085	
			(高校)	(47)	(72)	—		
23 年度	佐世保校	7月17日	参加者	150	78	142	370	1337
			(高校)	(43)	(43)	—		
	シーボルト校	7月17・18日	参加者	619	111	237	967	
			(高校)	(52)	(61)	—		

聴講生・科目等履修生の受入状況
-----------------

## ○聴講生

(学則第56条) 本学の特定の授業科目を聴講するために入学を許可された者

(単位: 人、科目)

年度	キャンパス名	聴講生(のべ)			受講科目
		計	男	女	
20年度	佐世保校	0	—	—	—
	シーボルト校	1	0	1	1
21年度	佐世保校	2	0	2	2
	シーボルト校	1	0	1	2
22年度	佐世保校	4	0	4	6
	シーボルト校	0	—	—	—
23年度	佐世保校	6	2	4	6
	シーボルト校	1	0	1	1

## ○科目等履修生

(学則第57条) 本学の特定の授業科目を履修し単位を修得するために入学を許可された者

(単位: 人、科目)

年度	キャンパス名	科目等履修生(のべ)			受講科目
		計	男	女	
20年度	佐世保校	7	3	4	12
	シーボルト校	3	1	2	4
21年度	佐世保校	11	4	7	26
	シーボルト校	0	—	—	—
22年度	佐世保校	8	3	5	26
	シーボルト校	2	0	2	2
23年度	佐世保校	5	0	5	15
	シーボルト校	1	1	0	2

# I. NICEキャンパス長崎について

## 1. NICEキャンパス長崎とは

### (1) NICEキャンパス長崎(大学間単位互換制度)

「NICEキャンパス長崎」は、平成13年度からスタートした単位互換制度で、長崎県内全ての大学、短期大学及び高等専門学校が参加しています。

「NICE」の名称は、Nagasaki Intercollegiate(大学間) Credit(単位) Exchange(互換)の頭文字をとってつけられました。

単位互換制度は、各大学等が提供している授業科目(コーディネート科目、教養科目、専門科目)の中から、希望する科目を履修し、科目開設大学で単位を修得すれば所属大学の単位として認定される制度です。また、認定された単位のうち、所定の要件を満たすものについては、卒業要件単位(大学によって扱いは異なります。)として活用することもできます。

自分の大学にない分野の科目を学びたい、自分の専攻を深めたい人など、本制度を利用していろいろな可能性にチャレンジしてください。

○平成23年度受講生：591名※うち自大学開講科目の受講者を除く純粋な単位互換履修生：110名  
(うち長崎県立大学学生：120名※うち県立大学開講科目の受講者を除く純粋な単位互換履修生：47名)

### (2) NICEキャンパス長崎を利用した受講生の声

NICEキャンパス長崎には、他大学の単位が自大学の単位として取得できるほかにも、様々なメリットがあります。昨年度NICEキャンパス長崎を利用した単位互換履修生からは、次のような感想が寄せられています。

#### これまでに受講した方の感想

- 自分の所属学部に限らず、興味のある科目を学ぶことができる点が良かったです。
- 自分の大学にない分野を受講することができる上に、単位にもなるのでとても良い制度だと思います。
- 様々な先生がその専門の話しをしてくれたので、期待や興味を持って楽しく学べました。
- 他大学の教授の話しを聞けたり、他大学の雰囲気やわかって面白かったです。
- 長崎について様々な視点から学ぶことができました。
- 地域の方々とも一緒に参加できて勉強になりました。
- 他大学の学生や社会人の方々と意見交換しあえるところが楽しかったです。

このように、NICEキャンパス長崎では所属大学だけでは学べない分野について学びの機会や、他大学の講師陣・学生との交流、社会人の方々との交流を深める機会などを提供しています。

また、コーディネート科目では長崎に関係する話題を中心に、各大学が独自の視点から講義を構成しています。

長崎について様々な視点から学びたい方、交流を深めたい方は、是非この機会を活用してみたいかがでしょうか。

# 平成23年度後期 授業評価アンケート集計

長崎県立大学佐世保校

## 授業評価アンケート結果について

### I 調査概要について

平成23年度後期の授業評価アンケートは、通常分については平成24年1月10日から27日までの約2週間において、また、集中講義については随時実施された。

対象科目数は405科目、履修登録者数はのべ20,095名に対し、回答科目数は343科目、回答者数は、のべ11,768名であった。

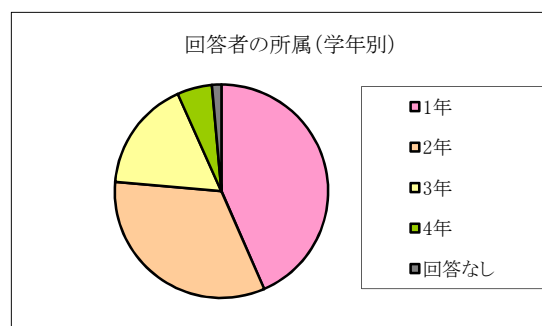
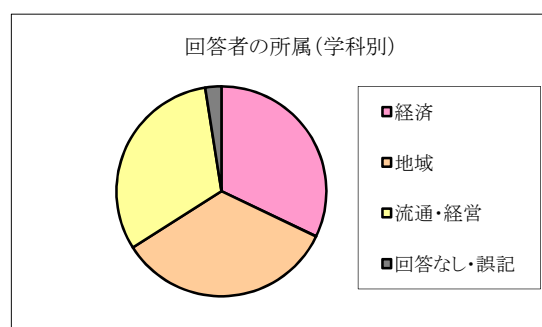
### II 回答状況について

#### ①出席状況について

	回答者数	履修登録者数	回答率
全体	11,768 人	20,095 人	58.6 %

#### ②回答者の所属について

		回答者数	所属割合
学科別	経済	3,775 人	32.1 %
	地域	3,991 人	33.9 %
	流通・経営	3,710 人	31.5 %
	回答なし・誤記	292 人	2.5 %
学年別	1年	5,113 人	43.4 %
	2年	3,877 人	32.9 %
	3年	1,987 人	16.9 %
	4年	624 人	5.3 %
	回答なし	167 人	1.4 %
全体		11,768 人	100.0 %



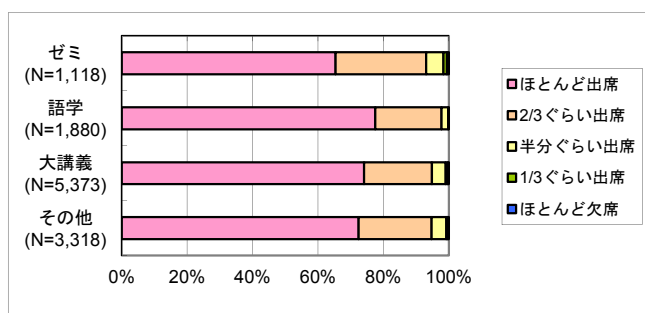
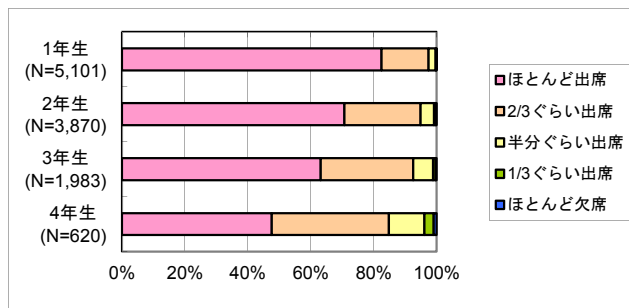
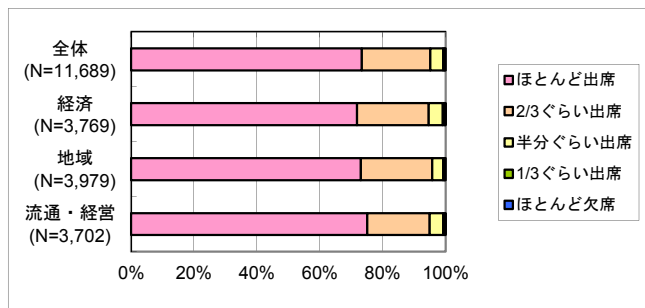


III アンケート回答結果について

1. この授業への出席率はどれくらいですか。

単位：%

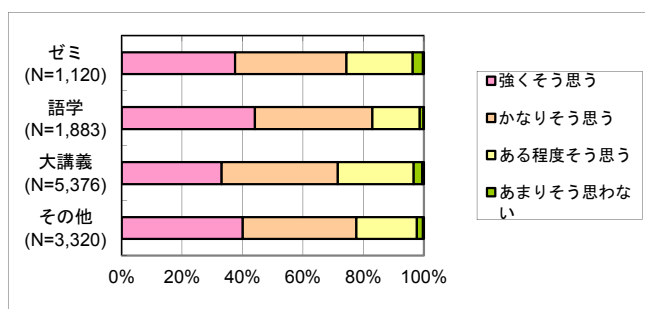
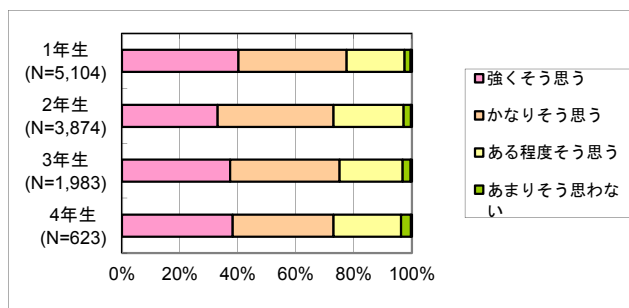
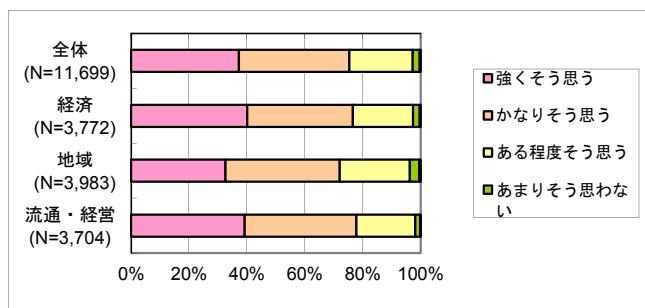
	全体 (N=11,689)	経済 (N=3,769)	地域 (N=3,979)	流通・経営 (N=3,702)	1年生 (N=5,101)	2年生 (N=3,870)	3年生 (N=1,983)	4年生 (N=620)	ゼミ (N=1,118)	語学 (N=1,880)	大講義 (N=5,373)	その他 (N=3,318)
ほとんど出席	73.3	71.8	73.1	75.1	82.5	70.6	63.2	47.6	65.4	77.5	74.0	72.5
2/3ぐらい出席	21.8	22.7	22.7	19.8	15.0	24.3	29.3	37.3	27.7	20.3	20.8	22.2
半分ぐらい出席	4.1	4.5	3.4	4.2	2.2	4.2	6.3	11.3	5.3	2.1	4.2	4.5
1/3ぐらい出席	0.6	0.6	0.5	0.6	0.2	0.6	0.9	2.9	1.1	0.2	0.7	0.5
ほとんど欠席	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.4	1.0	0.5	0.0	0.3	0.3



2. この授業を遅刻や私語をせず、真剣に受講しましたか。

単位：%

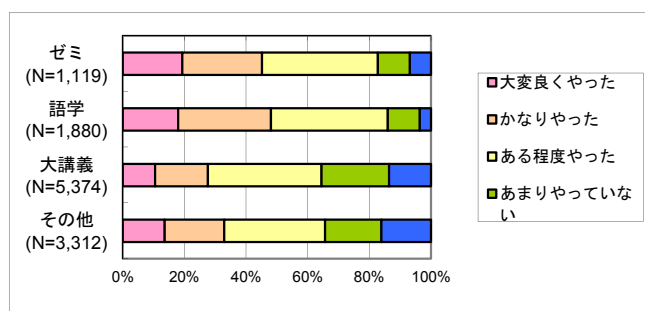
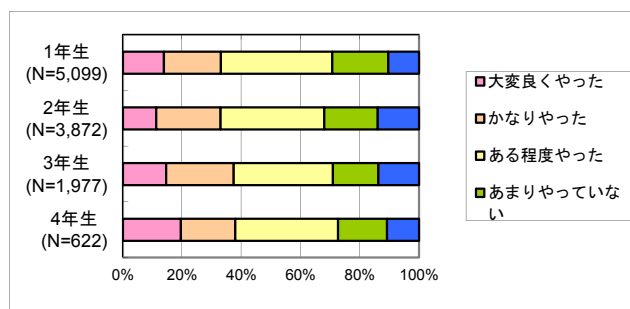
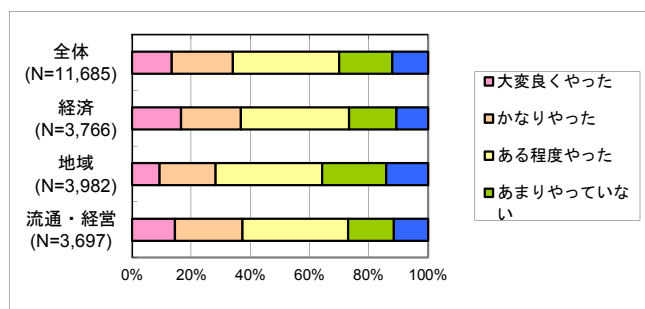
	全体 (N=11,699)	経済 (N=3,772)	地域 (N=3,983)	流通・経営 (N=3,704)	1年生 (N=5,104)	2年生 (N=3,874)	3年生 (N=1,983)	4年生 (N=623)	ゼミ (N=1,120)	語学 (N=1,883)	大講義 (N=5,376)	その他 (N=3,320)
強くそう思う	37.2	40.1	32.6	39.2	40.2	33.0	37.3	38.2	37.5	44.1	33.0	40.0
かなりそう思う	38.1	36.5	39.4	38.7	37.3	40.0	37.8	34.8	36.9	38.8	38.4	37.6
ある程度そう思う	21.9	20.7	24.2	20.2	19.9	24.1	21.8	23.3	22.0	15.7	25.1	20.0
あまりそう思わない	2.4	2.4	3.2	1.7	2.1	2.5	2.7	3.4	3.3	1.2	2.9	2.1
全くそう思わない	0.4	0.3	0.6	0.2	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.3



## 3. この授業について予習・復習を行いましたか。

単位：%

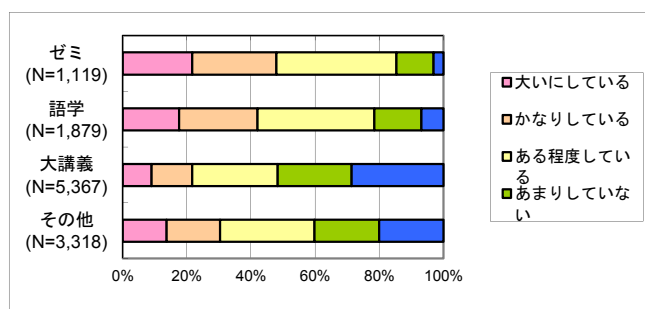
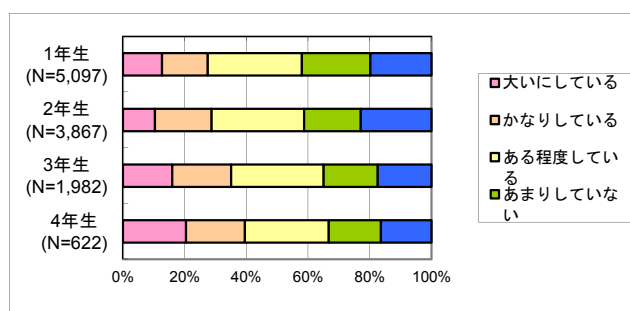
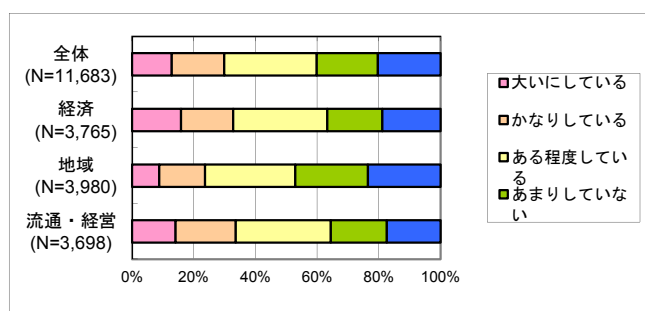
	全体 (N=11,685)	経済 (N=3,766)	地域 (N=3,982)	流通・経営 (N=3,697)	1年生 (N=5,099)	2年生 (N=3,872)	3年生 (N=1,977)	4年生 (N=622)	ゼミ (N=1,119)	語学 (N=1,880)	大講義 (N=5,374)	その他 (N=3,312)
大変良くやった	13.4	16.5	9.3	14.5	13.8	11.3	14.6	19.6	19.3	17.9	10.6	13.6
かなりやった	20.6	20.2	18.9	22.8	19.2	21.7	22.8	18.3	25.8	30.1	17.0	19.3
ある程度やった	35.9	36.5	36.0	35.7	37.7	35.0	33.5	34.7	37.6	37.9	36.9	32.7
あまりやっていない	17.9	16.1	21.6	15.5	18.9	18.1	15.3	16.6	10.4	10.4	21.9	18.3
全くやっていない	12.1	10.6	14.1	11.5	10.3	13.9	13.8	10.8	6.9	3.7	13.7	16.1



## 4. 授業内容について質問や発言をしていますか。

単位：%

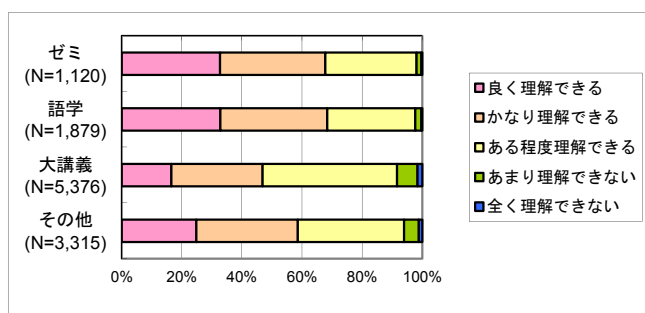
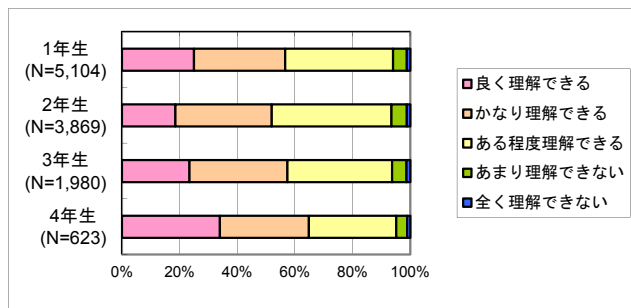
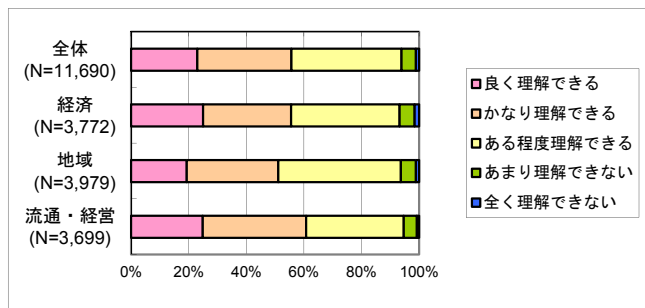
	全体 (N=11,683)	経済 (N=3,765)	地域 (N=3,980)	流通・経営 (N=3,698)	1年生 (N=5,097)	2年生 (N=3,867)	3年生 (N=1,982)	4年生 (N=622)	ゼミ (N=1,119)	語学 (N=1,879)	大講義 (N=5,367)	その他 (N=3,318)
大いにしている	12.9	15.9	8.9	14.2	12.7	10.4	16.0	20.4	21.7	17.6	9.0	13.7
かなりしている	17.0	16.9	14.8	19.5	14.9	18.4	19.1	19.1	26.2	24.4	12.7	16.7
ある程度している	30.0	30.5	29.3	30.8	30.5	29.9	30.0	27.2	37.4	36.5	26.6	29.4
あまりしていない	19.8	17.8	23.6	18.1	22.1	18.4	17.5	16.9	11.5	14.6	23.0	20.1
全くしていない	20.3	18.9	23.5	17.4	19.8	22.9	17.5	16.4	3.1	6.9	28.7	20.1



5. 授業内容は良く理解できますか。

単位:%

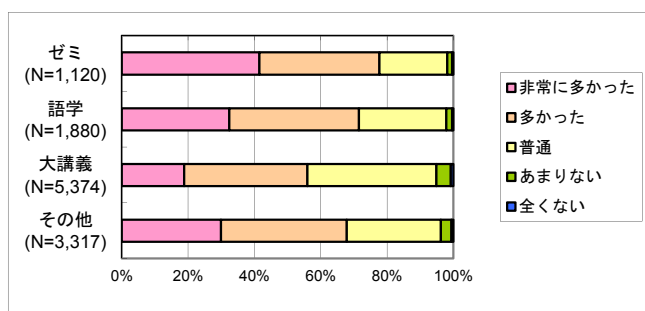
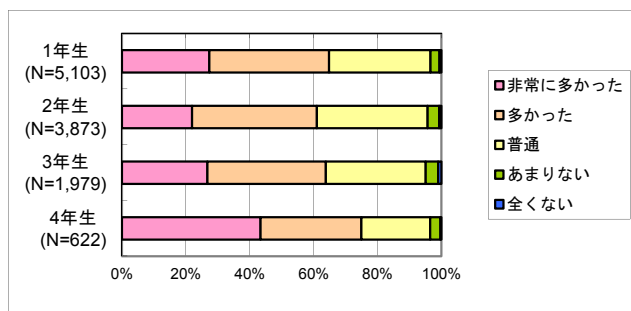
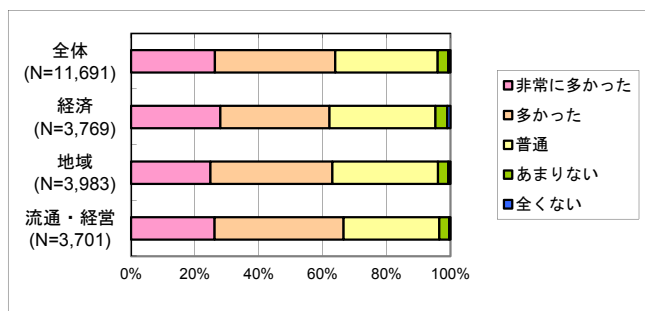
	全体 (N=11,690)	経済 (N=3,772)	地域 (N=3,979)	流通・経営 (N=3,699)	1年生 (N=5,104)	2年生 (N=3,869)	3年生 (N=1,980)	4年生 (N=623)	ゼミ (N=1,120)	語学 (N=1,879)	大講義 (N=5,376)	その他 (N=3,315)
良く理解できる	23.1	24.9	19.3	24.9	25.0	18.6	23.5	34.0	32.7	32.8	16.6	24.8
かなり理解できる	32.6	30.6	31.8	35.9	31.7	33.4	33.9	30.8	35.1	35.6	30.3	33.8
ある程度理解できる	38.2	37.7	42.5	33.8	37.3	41.5	36.3	30.3	30.3	29.2	44.7	35.3
あまり理解できない	5.0	5.2	5.2	4.5	4.9	5.4	4.9	3.7	1.6	2.1	6.8	4.9
全く理解できない	1.2	1.5	1.2	0.8	1.1	1.1	1.3	1.1	0.4	0.3	1.6	1.2



6. この授業によって得たものは多かったですか

単位:%

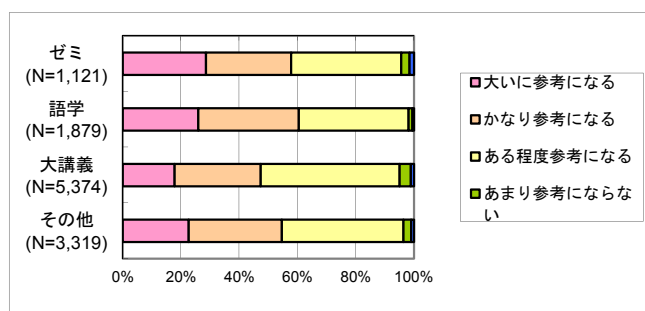
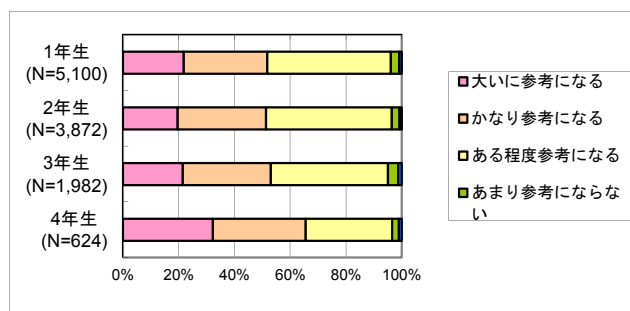
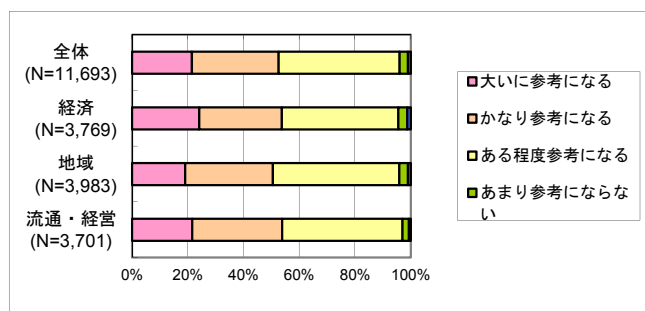
	全体 (N=11,691)	経済 (N=3,769)	地域 (N=3,983)	流通・経営 (N=3,701)	1年生 (N=5,103)	2年生 (N=3,873)	3年生 (N=1,979)	4年生 (N=622)	ゼミ (N=1,120)	語学 (N=1,880)	大講義 (N=5,374)	その他 (N=3,317)
非常に多かった	26.3	28.0	24.9	26.1	27.4	21.9	26.7	43.4	41.5	32.4	18.8	29.9
多かった	37.6	34.2	38.2	40.4	37.4	39.1	37.1	31.5	36.2	39.1	37.2	37.9
普通	32.1	33.1	33.0	30.0	31.8	34.7	31.2	21.5	20.4	26.3	38.9	28.3
あまりない	3.3	3.7	3.2	3.1	2.8	3.6	3.9	3.2	1.4	1.8	4.3	3.2
全くない	0.7	1.0	0.7	0.4	0.6	0.7	1.0	0.3	0.4	0.4	0.8	0.7



## 7. 授業科目の選択に際して、シラバスは参考になりましたか。

単位：%

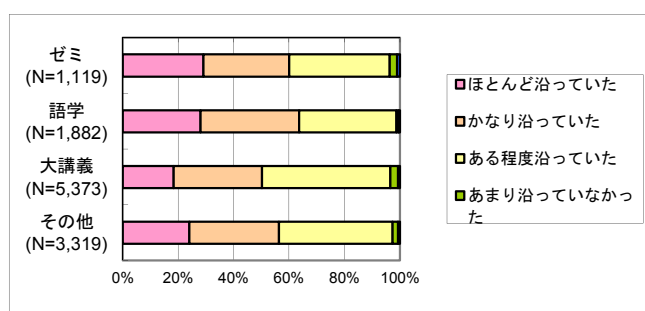
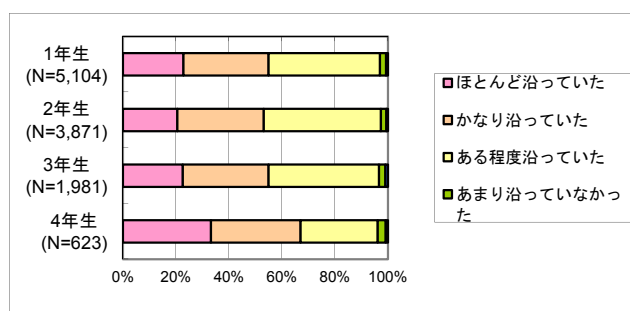
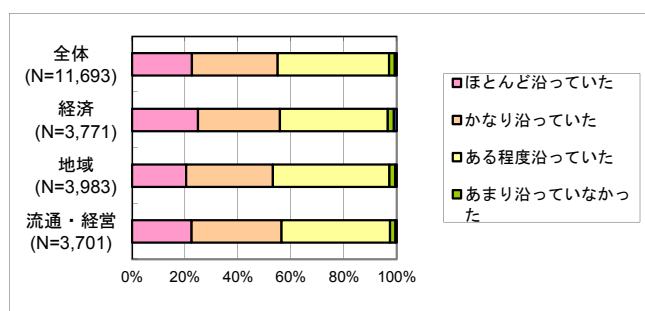
	全体 (N=11,693)	経済 (N=3,769)	地域 (N=3,983)	流通・経営 (N=3,701)	1年生 (N=5,100)	2年生 (N=3,872)	3年生 (N=1,982)	4年生 (N=624)	ゼミ (N=1,121)	語学 (N=1,879)	大講義 (N=5,374)	その他 (N=3,319)
大いに参考になる	21.5	24.2	19.0	21.6	21.9	19.6	21.5	32.2	28.5	25.9	17.8	22.7
かなり参考になる	31.0	29.6	31.5	32.3	29.9	31.7	31.5	33.3	29.3	34.5	29.6	32.0
ある程度参考になる	43.4	41.7	45.3	43.1	44.3	45.1	41.9	30.9	37.8	37.7	47.6	41.7
あまり参考にならない	3.0	3.3	3.1	2.4	3.0	2.8	3.8	2.4	2.9	1.3	3.9	2.7
全く参考にならない	1.0	1.2	1.1	0.6	1.0	0.9	1.3	1.1	1.5	0.5	1.1	1.0



## 8. 授業内容はシラバスに沿っていましたか。

単位：%

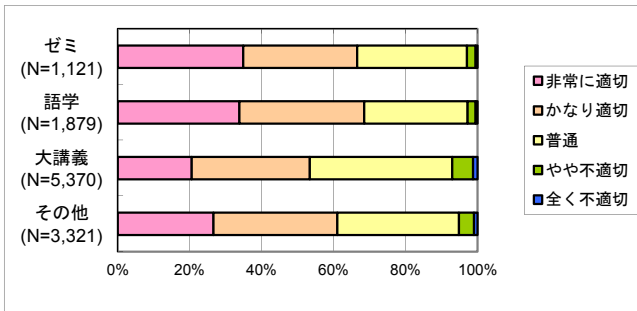
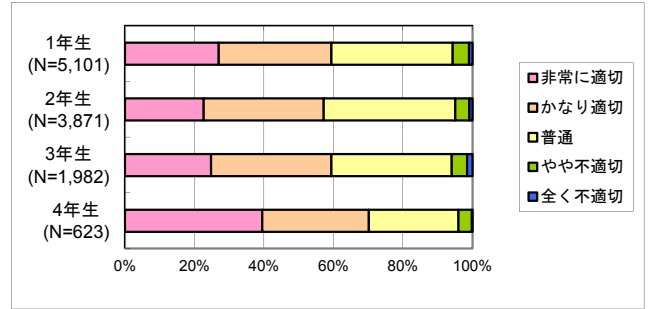
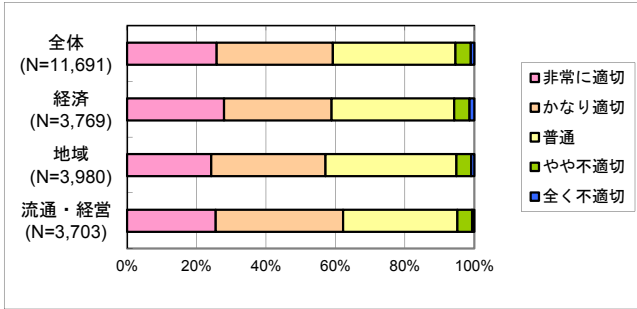
	全体 (N=11,693)	経済 (N=3,771)	地域 (N=3,983)	流通・経営 (N=3,701)	1年生 (N=5,104)	2年生 (N=3,871)	3年生 (N=1,981)	4年生 (N=623)	ゼミ (N=1,119)	語学 (N=1,882)	大講義 (N=5,373)	その他 (N=3,319)
ほとんど沿っていた	22.6	24.9	20.4	22.5	22.8	20.6	22.6	33.2	29.1	28.1	18.4	24.0
かなり沿っていた	32.5	30.9	32.7	33.9	32.2	32.6	32.4	33.9	30.9	35.6	31.8	32.4
ある程度沿っていた	42.0	40.7	44.0	41.0	42.1	44.2	41.7	29.1	36.3	35.1	46.2	41.0
あまり沿っていなかった	2.2	2.4	2.2	2.1	2.2	2.0	2.4	3.0	2.6	0.9	2.8	2.0
全く沿っていなかった	0.7	1.1	0.6	0.5	0.7	0.6	0.9	0.8	1.1	0.4	0.7	0.7



9. 授業のテンポ・速度は適切ですか。

単位：%

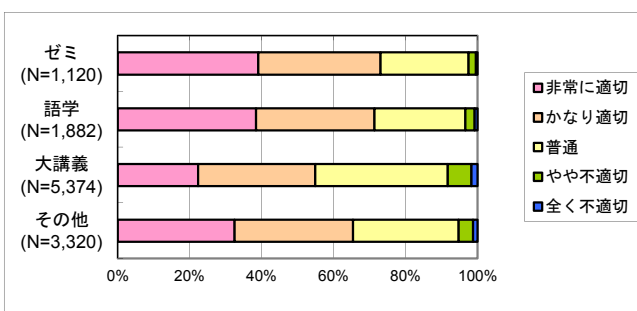
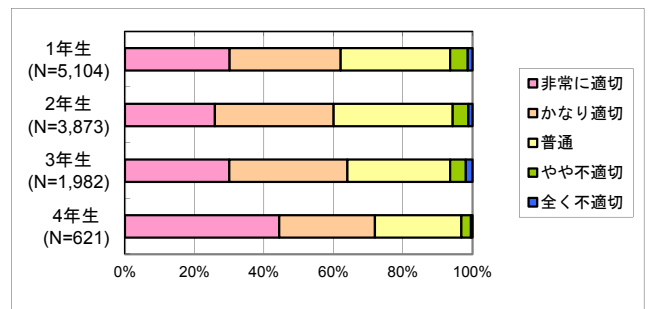
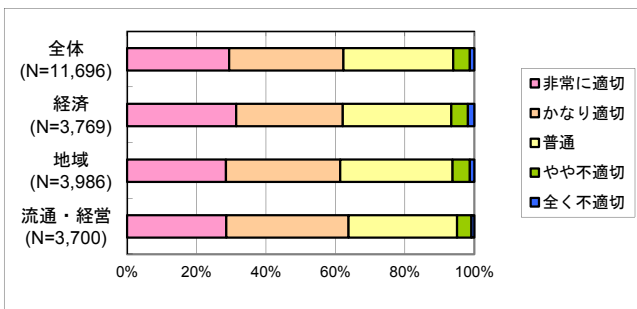
	全体 (N=11,691)	経済 (N=3,769)	地域 (N=3,980)	流通・経営 (N=3,703)	1年生 (N=5,101)	2年生 (N=3,871)	3年生 (N=1,982)	4年生 (N=623)	ゼミ (N=1,121)	語学 (N=1,879)	大講義 (N=5,370)	その他 (N=3,321)
非常に適切	25.8	27.9	24.2	25.5	27.0	22.7	24.8	39.5	34.9	33.8	20.6	26.6
かなり適切	33.5	31.0	33.0	36.8	32.4	34.6	34.6	30.7	31.7	34.6	32.8	34.4
普通	35.3	35.2	37.6	32.9	34.9	37.8	34.6	25.8	30.5	28.7	39.6	33.8
やや不適切	4.4	4.4	4.3	4.2	4.7	4.1	4.5	3.9	2.4	2.2	5.8	4.2
全く不適切	1.0	1.4	0.9	0.7	1.0	0.9	1.5	0.2	0.5	0.5	1.2	1.0



10. 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいですか。

単位：%

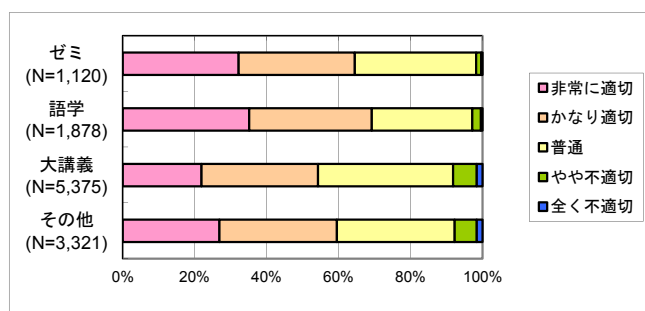
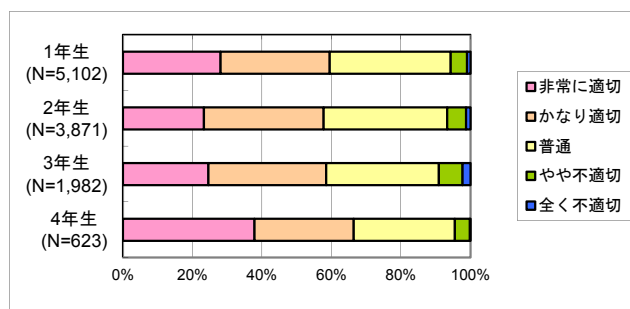
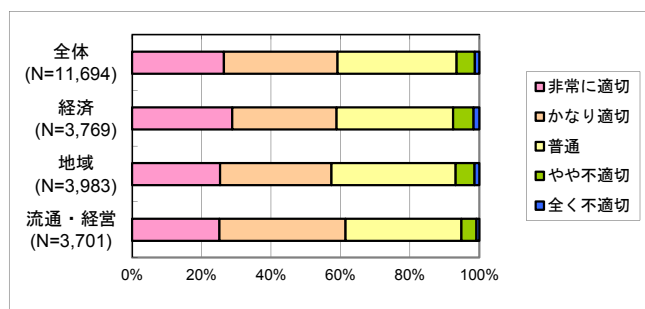
	全体 (N=11,696)	経済 (N=3,769)	地域 (N=3,986)	流通・経営 (N=3,700)	1年生 (N=5,104)	2年生 (N=3,873)	3年生 (N=1,982)	4年生 (N=621)	ゼミ (N=1,120)	語学 (N=1,882)	大講義 (N=5,374)	その他 (N=3,320)
非常に適切	29.4	31.4	28.5	28.6	30.2	25.9	30.0	44.4	39.1	38.5	22.4	32.5
かなり適切	32.8	30.7	32.9	35.2	31.9	34.2	34.0	27.5	33.9	32.9	32.5	33.0
普通	31.6	31.3	32.3	31.2	31.6	34.3	29.5	24.8	24.5	25.2	36.8	29.3
やや不適切	4.7	4.8	5.0	4.1	5.0	4.5	4.5	2.7	2.1	2.6	6.5	4.0
全く不適切	1.3	1.9	1.3	0.9	1.4	1.2	1.9	0.5	0.4	0.9	1.7	1.3



## 11. 授業内容の表示方法(板書・映像画面等)は適切ですか。

単位:%

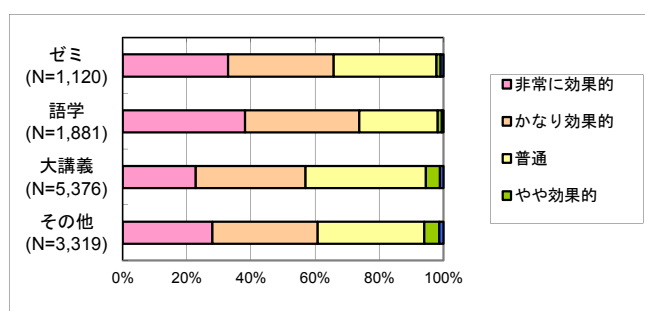
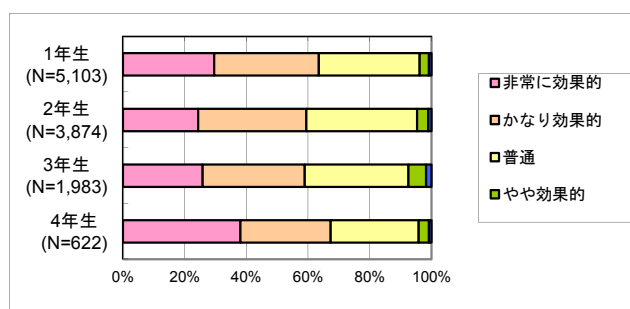
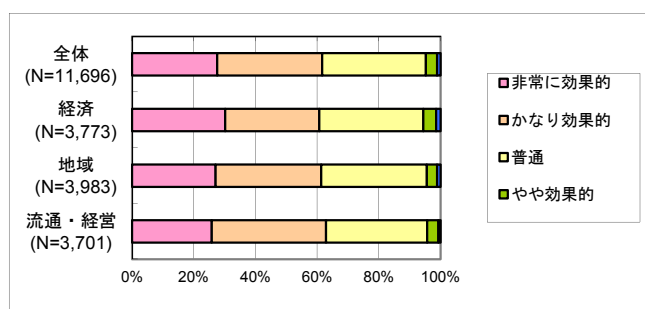
	全体 (N=11,694)	経済 (N=3,769)	地域 (N=3,983)	流通・経営 (N=3,701)	1年生 (N=5,102)	2年生 (N=3,871)	3年生 (N=1,982)	4年生 (N=623)	ゼミ (N=1,120)	語学 (N=1,878)	大講義 (N=5,375)	その他 (N=3,321)
非常に適切	26.5	28.8	25.3	25.1	28.1	23.4	24.6	37.9	32.2	35.2	21.9	26.9
かなり適切	32.7	30.0	32.1	36.3	31.4	34.4	34.0	28.6	32.2	34.0	32.4	32.6
普通	34.3	33.6	35.8	33.4	34.8	35.6	32.3	29.1	33.8	28.0	37.5	32.7
やや不適切	5.3	5.9	5.4	4.3	4.6	5.4	6.8	4.3	1.4	2.4	6.6	6.1
全く不適切	1.3	1.7	1.4	0.8	1.0	1.3	2.3	0.2	0.4	0.4	1.6	1.6



## 12. 教材(テキスト・配付資料・視聴覚機器等)を効果的に用いていますか。

単位:%

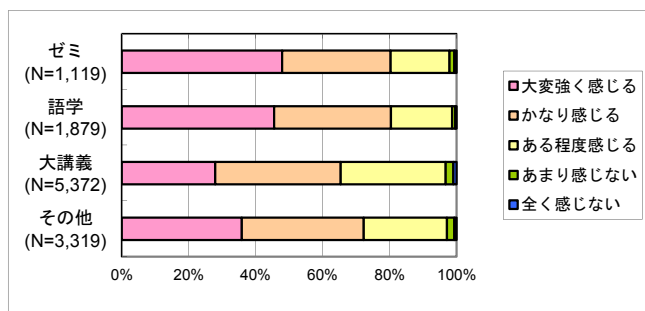
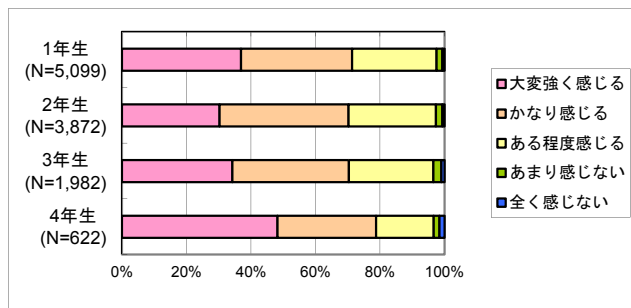
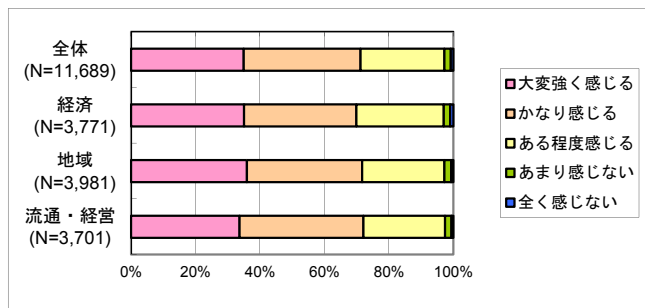
	全体 (N=11,696)	経済 (N=3,773)	地域 (N=3,983)	流通・経営 (N=3,701)	1年生 (N=5,103)	2年生 (N=3,874)	3年生 (N=1,983)	4年生 (N=622)	ゼミ (N=1,120)	語学 (N=1,881)	大講義 (N=5,376)	その他 (N=3,319)
非常に効果的	27.7	30.2	27.1	25.8	29.6	24.3	25.9	38.1	32.9	38.1	22.8	27.9
かなり効果的	34.0	30.6	34.3	37.1	33.9	35.1	33.1	29.3	32.9	35.6	34.2	32.9
普通	33.6	33.7	34.2	32.7	32.6	35.9	33.5	28.5	32.1	24.4	37.5	33.1
やや効果的	3.7	4.1	3.3	3.6	3.0	3.6	5.7	3.4	1.3	1.3	4.4	4.7
全く効果的でない	1.1	1.4	1.1	0.7	0.8	1.1	1.8	0.8	1.0	0.5	1.1	1.4



13. 授業に対する教員の熱意が感じられますか。

単位：%

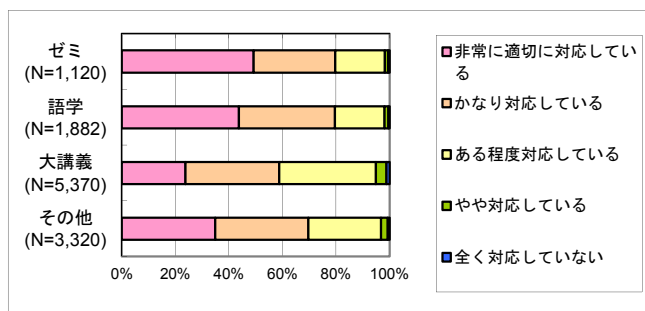
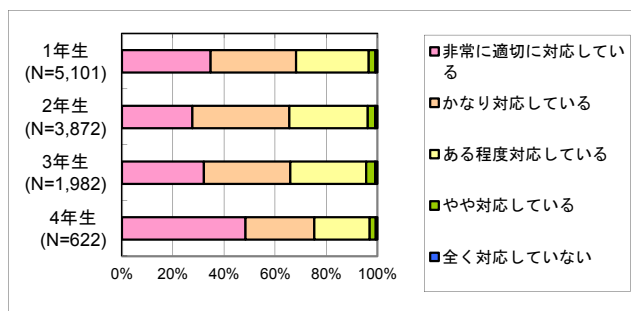
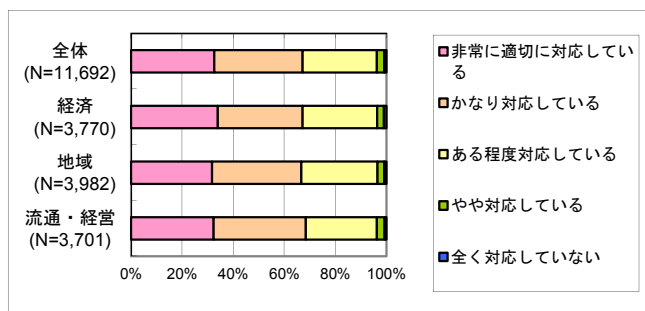
	全体 (N=11,689)	経済 (N=3,771)	地域 (N=3,981)	流通・経営 (N=3,701)	1年生 (N=5,099)	2年生 (N=3,872)	3年生 (N=1,982)	4年生 (N=622)	ゼミ (N=1,119)	語学 (N=1,879)	大講義 (N=5,372)	その他 (N=3,319)
大変強く感じる	34.9	35.1	35.9	33.6	37.0	30.3	34.3	48.2	47.9	45.5	28.0	35.9
かなり感じる	36.3	34.8	35.7	38.5	34.3	40.0	36.1	30.5	32.4	34.9	37.5	36.5
ある程度感じる	26.0	27.1	25.6	25.3	26.2	27.1	26.2	17.8	17.5	18.3	31.3	24.8
あまり感じない	2.0	2.0	2.1	2.0	1.8	2.0	2.4	1.8	1.4	1.0	2.3	2.2
全く感じない	0.8	1.0	0.7	0.6	0.7	0.7	1.0	1.6	0.7	0.4	1.0	0.7



14. 学生の質問に適切に対応していますか。

単位：%

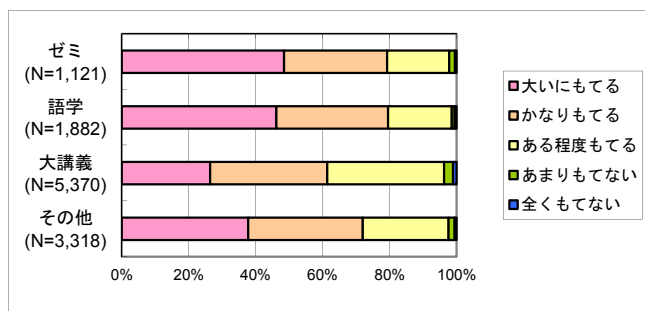
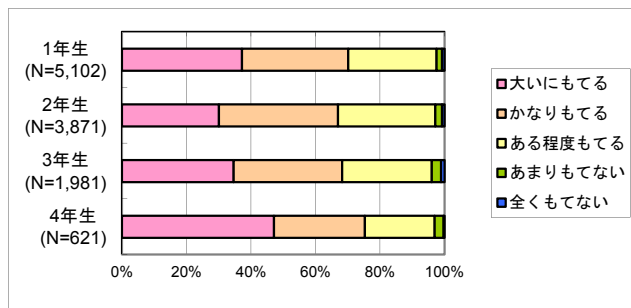
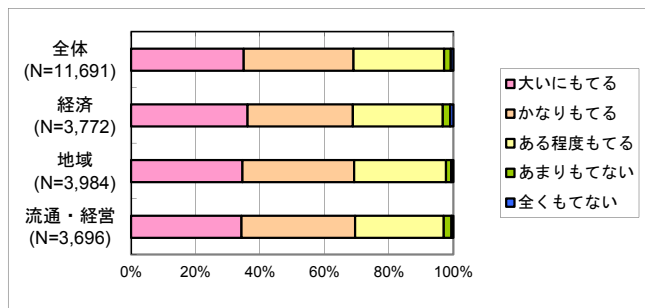
	全体 (N=11,692)	経済 (N=3,770)	地域 (N=3,982)	流通・経営 (N=3,701)	1年生 (N=5,101)	2年生 (N=3,872)	3年生 (N=1,982)	4年生 (N=622)	ゼミ (N=1,120)	語学 (N=1,882)	大講義 (N=5,370)	その他 (N=3,320)
非常に適切に対応している	32.6	34.0	31.7	32.4	34.7	27.5	32.1	48.4	49.3	43.7	23.7	34.8
かなり対応している	34.7	33.1	35.0	36.0	33.4	38.0	33.8	26.8	30.4	35.9	35.0	34.8
ある程度対応している	29.0	29.3	29.8	27.8	28.5	30.6	29.6	21.7	18.5	18.5	36.1	27.1
やや対応している	2.9	2.7	2.6	3.1	2.6	2.9	3.5	2.4	1.3	1.4	3.9	2.5
全く対応していない	0.9	1.0	0.9	0.8	0.8	0.9	1.0	0.6	0.5	0.5	1.2	0.7



15. 公平に学生に対応し、信頼感がありますか。

単位:%

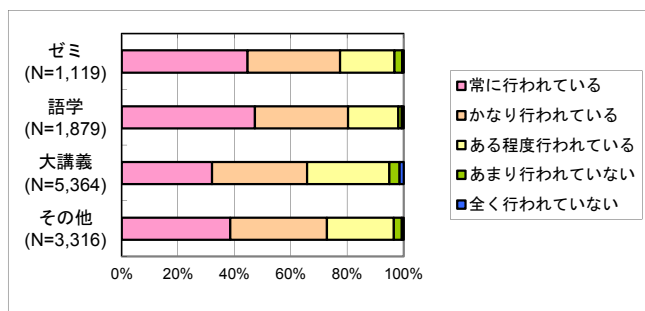
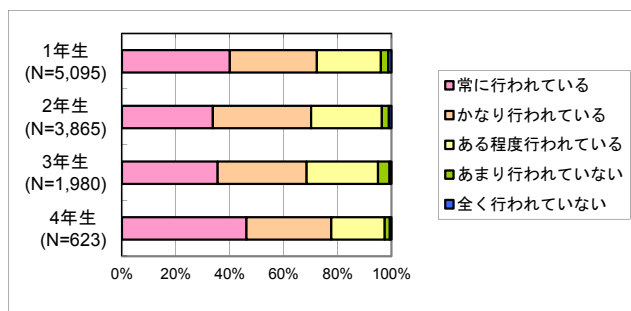
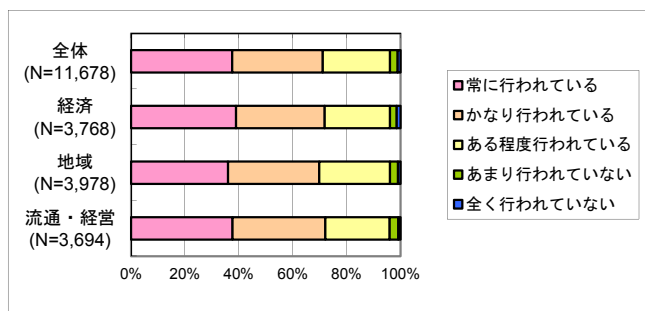
	全体 (N=11,691)	経済 (N=3,772)	地域 (N=3,984)	流通・経営 (N=3,696)	1年生 (N=5,102)	2年生 (N=3,871)	3年生 (N=1,981)	4年生 (N=621)	ゼミ (N=1,121)	語学 (N=1,882)	大講義 (N=5,370)	その他 (N=3,318)
大いにもてる	34.9	36.2	34.6	34.2	37.2	30.0	34.7	47.2	48.4	46.2	26.4	37.7
かなりもてる	34.1	32.7	34.6	35.3	32.9	36.9	33.6	28.2	30.8	33.3	35.0	34.2
ある程度もてる	28.1	27.9	28.5	27.5	27.4	30.2	27.7	21.6	18.6	19.1	34.9	25.6
あまりもてない	2.1	2.3	1.6	2.3	1.7	2.0	2.9	2.7	1.7	0.9	2.7	1.8
全くもてない	0.8	1.0	0.7	0.6	0.8	0.8	1.1	0.3	0.5	0.6	1.1	0.6



16. 授業は決められた時間通りに行われていますか。

単位:%

	全体 (N=11,678)	経済 (N=3,768)	地域 (N=3,978)	流通・経営 (N=3,694)	1年生 (N=5,095)	2年生 (N=3,865)	3年生 (N=1,980)	4年生 (N=623)	ゼミ (N=1,119)	語学 (N=1,879)	大講義 (N=5,364)	その他 (N=3,316)
常に行われている	37.5	39.0	36.0	37.6	40.1	33.7	35.6	46.2	44.7	47.2	32.0	38.5
かなり行われている	33.7	32.9	33.8	34.5	32.2	36.5	33.0	31.5	32.7	33.1	33.7	34.3
ある程度行われている	24.9	24.2	26.2	23.9	23.7	26.2	26.5	19.7	19.3	17.8	29.2	23.7
あまり行われていない	2.9	2.6	3.0	3.1	2.7	2.7	4.2	1.9	2.8	1.3	3.6	2.9
全く行われていない	1.0	1.4	0.9	0.9	1.2	1.0	0.8	0.6	0.5	0.6	1.5	0.7

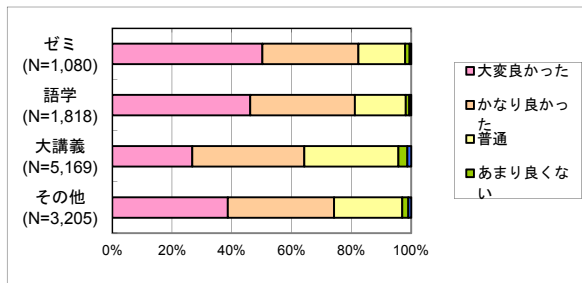
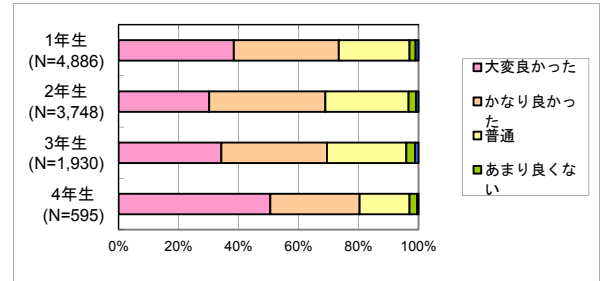
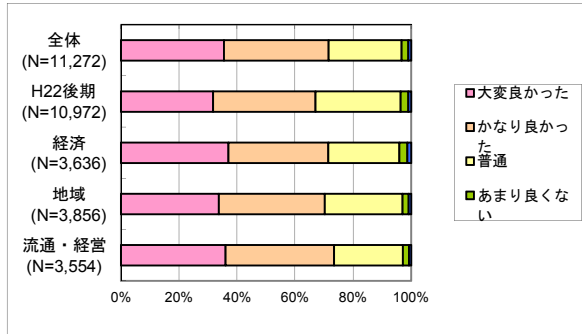




17. 総合的に見て、この授業は良い講義でしたか。

単位：%

	全体 (N=11,272)	H22後期 (N=10,972)	経済 (N=3,636)	地域 (N=3,856)	流通・経営 (N=3,554)	1年生 (N=4,886)	2年生 (N=3,748)	3年生 (N=1,930)	4年生 (N=595)	ゼミ (N=1,080)	語学 (N=1,818)	大講義 (N=5,169)	その他 (N=3,205)
大変良かった	35.5	31.7	37.0	33.7	36.1	38.4	30.2	34.2	50.6	50.2	46.1	26.8	38.7
かなり良かった	36.0	35.3	34.5	36.6	37.4	35.1	38.7	35.2	29.7	32.1	35.0	37.5	35.5
普通	25.1	29.4	24.5	26.8	23.7	23.6	27.8	26.4	16.6	15.6	17.1	31.5	22.7
あまり良くない	2.3	2.6	2.7	2.1	2.1	2.0	2.4	2.8	2.5	1.5	1.2	3.0	2.1
良くない	1.0	1.0	1.4	0.9	0.8	1.0	0.9	1.2	0.5	0.6	0.6	1.3	0.9



## H23年度実施FD研修会一覧

## 全学FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
佐世保校	8月10・11日	142(10日), 約120(11日)	統一テーマ「教育・学習の質の向上」, 外部講師として立命館大学沖先生, 九州工業大学林先生を招聘, 10日に講演会, 10・11日に分科会が行われた。

## 学部FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学部	12月2日	8(公開授業)、6(意見交換会)	長崎大学教育開発センター山地准教授を招聘、公開授業(授業相互参観)と意見交換会を行った。
国際情報学部	12月16日～22日 1月17日	延べ34	教員相互の授業参観を実施した。授業科目数は37科目で、1月17日に意見交換会を行った。
看護栄養学部	7月7日～7月27日 11月18日～1月17日	70	教員相互の授業参観と意見交換会を行った。前期4回、後期4回。

## 学部FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学科	6月22日	13	新入生セミナーと総合演習との関連性、連続性、および相互的独自性について研修を行った。
	7月20日	13	新入生セミナー学外オリエンテーションの更なる充実策、新入生セミナーの達成目標について、卒業困難者への就職支援について研修を行った。
	10月12日	12	教員による相互のjy行評価について研修を行った。
	2月24日	6	アクティブ・ラーニングなどの資料を配布し、ディベート力、プレゼンテーション力、及びグループ・ディスカッション能力の育成方法について意見交換を行った。
	3月16日	7	学生のディベート力、プレゼンテーション力について、卒業論文発表会、卒業論文の開示について意見交換を行った。
地域政策学科	7/12,7/15,11/8, 11/11,11/15,11/18, 11/22,11/25,12,2	14 (他学科から参加の教員は除く)	各ゼミごとに卒業論文発表会を行った。
	2月16日	11	優秀卒業論文報告会を行い、優秀論文10名の発表会を行った。
	2月中旬	20	アクティブ・ラーニングに関する点検を行い、必要に応じて教員から聞き取り調査を行い、学科会議にて報告を行った。
流通・経営学科	7月20日	12	新入生セミナーの課題と問題点について協議し、8月10日の全学FD研修会にて発表した。
	教授会開催を除く月 1回水曜日午後	毎回12程度	学士課程教育のあり方や将来構想、学長が掲げる大学の目標、新入生セミナーのあり方、就業力・就職率アップ等について、意見交換会を開催した。
国際交流学科	1月24日	13	初年次教育について、上村先生と山内先生が提案者で意見交換会を行った。
情報メディア学科	3月2日	17	アカデミック・アドバイザーと学習支援体制(創価大学の事例を参考に)のテーマで創価大学 関田学習支援センター長を招聘し、研修を行った。
看護学科	3月9日	26	長崎薬学・看護学連合コンソーシアムGP事業に関連した「多職種連携によるこれからの在宅療養支援を考える」をテーマに意見を交換した。
栄養健康学科	4月8日	18	駿河准教授を講師に、国家試験に関する対策等を話し合い、講義にどう反映するか協議した。

## 大学院FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学研究科	7月20日	13	TAについてをテーマに、竹田先生の発表にて意見交換を行った。
	1月18日	17	本学におけるTAの実態と今後の活用検討を話題に楊研究科長が講師として研修を行った。
国際情報学研究科	12月14日	18	「実践的教育に基づくIT技術者養成の事例と大学院生の研究指導について」をテーマに大分大学の西野教授を招聘し研修を行った。
人間健康学研究科	9月8日	12	「看護ケアの現象学」をテーマに大阪大学コミュニケーションデザインセンター山本氏を招聘し研修を行った。

## 授業評価

学部	開催月日	参加人数	模擬授業担当者	概要
経済学部	12月2日	6	奥山先生	外部FDerとして長崎大学山地先生を招聘、当日意見交換会を実施。
国際情報学部	12月16～22日	のべ30	37科目/34名 (国際交流 19/18, 情報メ ディア18/16)	1月17日に意見交換会を実施。
看護栄養学部	7月13日	7	藤丸先生	当日ディスカッションを実施。
	7月20日	9	堂下先生	当日ディスカッションを実施。
	7月7日	9	駿河先生	当日ディスカッションを実施。
	7月5・12・26日	9	四童子先生	7月末にまとめてディスカッションを実施。

## 4. GPA (Grade Point Average) 制度について

### (1) GPAとは

GPAは、アメリカ等の大学で一般的に用いられている成績評価法の一つで、大学院進学や留学時の参考資料として活用されています。

本学では、厳格な成績評価の仕組みとして、学生の卒業時におけるレベル確保等を図るため、成績評価基準にGPAを導入し、履修指導等に利用します。

GP (グレードポイント) は、各授業科目の成績についてポイント化したもので、GPAは、学生の学業成績を客観的に計るための「物差し」と言えます。

### (2) 成績評価

各学期ごとに授業科目の成績を5段階 (秀、優、良、可、不可) で評価し、それぞれに対して、以下のGPAを与えます。

成績表示	評価	評価点	単位付与	GP	備 考
A	秀	90~100点	合格	4.0	
B	優	80~89点	合格	3.0	
C	良	70~79点	合格	2.0	
D	可	60~69点	合格	1.0	
F	不可	59点以下	不合格	0	
N	単位認定	—	合格	—	他大学等で修得した単位の認定
W	履修中止	—	—	—	履修中止の手続きをしたもの
G	合格	—	合格	—	合格か不合格かを判定する科目
H	不合格	—	不合格	—	合格か不合格かを判定する科目
Y	失格	—	不合格	0	出席不足等で受験資格のないもの

### (3) 再履修の取扱い

不合格の科目、合格の科目を問わず、再履修を認めます。成績は、

- ①既合格科目を再履修する場合、再履修前の成績を破棄し、再履修後の成績が上書きされます。
- ②不合格科目を再履修し合格した場合、再履修後の成績で評価しますが、再履修前の「F」の評価は破棄せず、成績表に修学履歴として残します。なお、成績証明書には記載しません。

### (4) 履修中止 (取消) 制度

履修登録後一ヶ月以内に限り、履修登録科目の中止 (取消) を認めます。履修中止をした科目には、単位修得通知書に「W」の表示が示されます。

### (5) GPA適用除外科目

- ①卒業要件単位数に含まれない教職課程科目
- ②合格か不合格だけを判定する授業科目 (新入生セミナー)
- ③単位認定科目 (編入学、転入学、入学前既修得単位、行動科目)
- ④他大学との単位互換等で修得した科目

## 就職状況

&lt;佐世保校&gt;

(単位:%)

項目	経済学部			計 (①+②+③)
	経済学科 ①	地域政策学科 ②	流通・経営学科 ③	
20年度	90.2	94.6	96.2	93.8
21年度	90.5	94.5	88.4	91.1
22年度	88.2	85.7	89.7	87.9
23年度	91.8	89.0	90.5	90.4

&lt;シーボルト校&gt;

(単位:%)

項目	国際情報学部			看護栄養学部			合計 (①+②+③+④)
	国際交流学科 ①	情報メディア学科 ②	計 (①+②)	看護学科 ③	栄養健康学科 ④	計 (③+④)	
20年度	95.8	96.6	96.1	100.0	100.0	100.0	97.7
21年度	93.0	91.7	92.4	100.0	97.1	98.9	95.2
22年度	96.5	86.7	91.5	100.0	97.1	99.0	94.9
23年度	95.7	90.7	93.5	100.0	94.6	98.1	95.6

## 課外講座実施状況

&lt;佐世保校&gt;

(単位:人)

	講 座 名	受講者
20 年度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	34
	3級販売士養成講習	18
	2級販売士養成講習	9
	簿記3級講座	39
	簿記2級講座	14
	秘書技能検定2級直前対策	22
	秘書技能検定準1級	11
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	70
	計	217
21 年度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	32
	3級販売士養成講習	21
	2級販売士養成講習	8
	簿記3級講座	24
	簿記2級講座	18
	秘書技能検定2級直前対策	36
	秘書技能検定準1級	20
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	70
	計	229
22 年度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	49
	3級販売士養成講習	11
	2級販売士養成講習	12
	簿記3級講座	36
	簿記2級講座	18
	秘書技能検定2級直前対策	40
	秘書技能検定準1級	22
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	70
	計	258
23 年度	ファイナンシャル・プランニング技能検定3級対策講座	41
	ファイナンシャル・プランニング技能検定2級直前対策講座	5
	3級販売士養成講習	23
	2級販売士養成講習	12
	簿記3級講座	36
	簿記2級講座	21
	秘書技能検定2級直前対策	50
	秘書技能検定準1級	16
	公務員試験対策講座(大学生協主催)	119
計	323	

※後援会及び大学生協と連携して開講したもののみ記載。

## &lt;シーボルト校&gt;

(単位:人)

	講 座 名	受講者
20 年度	英語(TOEFL)対策講座	21
	MOS(Excel)対策講座	42
	MOS(Word)対策講座	41
	公務員(教養試験)対策講座	43
	公務員(専門試験:看護師・栄養士)対策講座	12
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	9
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	36
	計	204
21 年度	英語(TOEFL)対策講座	18
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	53
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	22
	通訳案内士	43
	秘書検定講座(準1級・2級)	31
	公務員(教養試験)対策講座	13
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	5
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	18
	基本情報技術者試験対策講座	29
	計	232
22 年度	英語(TOEFL)対策講座	24
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	54
	秘書検定講座(準1級・2級)	54
	マナー検定	45
	公務員(教養試験)対策講座	22
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	3
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	5
	教員試験(共通)対策講座	17
	基本情報技術者試験対策講座	28
	計	252
23 年度	英語(TOEFL)対策講座	13
	パソコンスキル(Microsoft認定Excel)講座	41
	パソコンスキル(Microsoft認定Word)講座	23
	秘書検定講座(準1級・2級)	17
	公務員(教養試験)対策講座	14
	公務員(専門試験:保健師)対策講座	-
	公務員(教養試験及び人物試験)対策講座	10
	教員試験(共通)対策講座	8
	養護教諭対策講座	5
	基本情報技術者試験対策講座(春・秋)	19
	計	150

※後援会及び大学生協と連携して開講したもののみ記載。

インターンシップの実施状況
---------------

(単位:人、社)

区分		参加者 (のべ)	うち履修登録者	うち単位修得者	受入企業
20年度	佐世保校	62	26	26	36
	シーボルト校	34	14	13	21
21年度	佐世保校	76	57	57	44
	シーボルト校	52	30	30	29
22年度	佐世保校	51	36	36	34
	シーボルト校	66	34	34	36
23年度	佐世保校	54	53	52	31
	シーボルト校	44	18	18	25

## ○主な受入企業(23年度実績)

## &lt;佐世保校&gt;

- ・佐世保市役所
- ・十八銀行
- ・(株)佐世保玉屋
- ・(株)セントラルホテル
- ・長崎県庁

他

## &lt;シーボルト校&gt;

- ・長崎市役所
- ・(株)長崎新聞社
- ・アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー
- ・(株)長崎全日空ホテルグラバーヒル
- ・三菱重工業(株)長崎造船所

他



# 学長裁量研究実績一覧

資料No. 15

## 【佐世保校】

(単位: 件、千円)

平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
23	14,463	23	12,150	20	10,248	24	18,194

### [平成23年度の取り組み]

研究種目	研究代表者		共同・個人の別	研究期間(年)	研 究 課 題	
	学 科	氏 名				
重点課題研究	離島	経済	綱 辰幸	個人	1	長崎県離島地域における介護保険の研究
		流通・経営	山本 裕	個人	2	離島交通の実相と課題-離島航路と離島空路を中心にして-
	東アジア	流通・経営	西島 博樹	共同	1	日中韓の地域連携に関する調査研究
		経済	中村 和敏	個人	1	経済発展と所得格差
	長崎の地域課題	地域政策	畑田 和佳奈	共同	1	公務員の労働意欲を決定づける要因の解明に関する実証研究
		地域政策	吉居 秀樹	共同	2	長崎県の世界遺産推進に関する基盤調査—多様な信仰共存へのアプローチ
		地域政策	石川 雄一	共同	2	都市縮小の時代におけるこれからの中規模都市の都市政策について-佐世保市・長崎市と国内外他都市との比較-
		経済	古河 幹夫	共同	2	産・学・地域連携の展開と地域活性化 —長崎県下における地域ブランド形成をめざす努力-
		地域政策	奥山 忠裕	個人	1	長崎県を中心とした広域観光圏の構築に関する研究
		地域政策	車 相龍	個人	2	産学官協働に基づく県内環境関連企業等の中国へのビジネス展開の支援
流通・経営		谷澤 毅	個人	1	軍港都市の形成史—キールと佐世保—	
経済		伊達木 瀧之助	個人	1	長崎県民の豊かさに関する他地域との比較研究	
経済	楊 光洙	個人	3	日本における道州制と地方分権に関する調査研究		
流通・経営	宮地 晃輔	個人	1	地域グリーン・ニューディール実践による中小企業への環境経営の普及と活性化		
一般課題研究	基盤研究	経済	青木 圭介	個人	1	欧州金融システムの再構築とユーロ圏の戦略的展望
		地域政策	岩清水 由美子	個人	1	ジョウゼフ・コンラッドと女性の偶像化の問題について
		流通・経営	村上 則夫	個人	1	地方自治体におけるクラウドコンピューティングの利活用の現状と今後の方向性
	経済	水野 倫理	個人	1	国際寡占市場における企業行動に関する研究～原産地規則と技術選択～	
	地域政策	山崎 祐一	個人	1	異文化間コミュニケーション能力の基礎を培う小学校外国語活動～子どもたちはどうしたら英語に興味を持つのか～	
	経済	植野 貴之	個人	1	多段意思決定過程におけるリスク鋭感型評価系に関する研究	
	地域政策	山田 千香子	個人	1	多文化社会における日系移民の適応への考察—カナダ日系移民にとっての「老い」と「暮らしやすさ」、支援ボランティア組織活動を中心として	
	基礎調査研究	経済	長濱 幸一	個人	1	19世紀後半のブラハ商工会議所管区における工業化とナショナリズムの展開
		地域政策	雪丸 武彦	個人	1	小規模校型学校経営に関する調査研究
経済	柳田 芳伸	個人	1	マルサス書簡選集の編集に向けての基礎的研究		

## 【シーボルト校】

(単位: 件、千円)

平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
30	26,570	30	27,051	29	26,454	54	56,429

## [平成23年度の取り組み]

研究種目	研究代表者		共同・個人 の別	研究 期間 (年)	研 究 課 題
	学 科	氏名			
離島	看護	吉田 恵理子	共同	3	離島の限界集落で生活する住民の終末期の実態と健康関連行動
	看護	稗園 砂千子	共同	1	長崎県の島嶼看護の特性と課題
東アジア	情報メディア	香取 淳子	共同	1	長崎と日中文化交流～映像コンテンツの影響を探る～
	情報メディア	吉光 正絵	共同	1	東アジアの若者の文化と社会意識の構築にICT(情報通信技術)の進展が与えた影響に関する実証研究
	栄養健康	正木 基文	共同	2	ヒトゲノムの多様性と健康寿命に関する研究 -日本と韓国の比較-
	国際交流	祁 建民	個人	1	中国農村における職能的社会結合の形成とその構造
	情報メディア	河又 貴洋	個人	1	東アジアにおけるモバイル通信の技術革新と社会的形成
	国際交流	小長谷 英代	個人	1	文化戦略としての「ユネスコ無形文化遺産」-東アジアの現状-
	情報メディア	P・ピヤ	個人	1	アジアのテレビ広告における家族像-日本・中国・台湾・タイの国際比較研究
重点課題研究 長崎の地域課題	情報メディア	金村 公一	共同	1	ICTを活用した長崎・上海・バンコク地域情報国際協働プロジェクトの産学官 フィージビリティ・スタディー
	情報メディア	藤沢 望	共同	1	長崎の路面電車におけるユニバーサル・サインデザインに関する研究
	栄養健康	奥 恒行	共同	1	桑葉エキス末添加米飯を利用した血糖を上昇させないオニギリの開発とその検証
	栄養健康	田中 一成	共同	1	緑茶葉とビワ葉を混合した発酵茶による特定保健用食品開発
	栄養健康	田丸 静香	共同	1	長崎県産摘果ミカンの機能性に関する研究および食品への応用
	栄養健康	田辺 賢一	共同	1	ビワの葉抽出物の機能性探索に関する研究
	情報メディア	辺見 一男	個人	1	TVカメラを用いた高齢者のための予防介護支援システムの開発
	情報メディア	吉村 元秀	個人	1	長崎県産魚類に関する視覚的非破壊鮮度評価データベースの構築
	看護	大塚 一徳	個人	1	地域の高齢者の認知的加齢がワーキングメモリに及ぼす影響に関する基礎的研究 -タッチパネルを利用した地域の高齢者のワーキングメモリ測定システムの開発-
	看護	堀内 啓子	個人	1	長崎県における障害児療育支援の現状と課題-指定児童デイサービス事業の調査を通して-
本学の個性創出	栄養健康	久木野 憲司	個人	1	アオリイカ肉の透明度を保持する方法の確立によって長崎県特産アオリイカのブランド化実現を目指す
	国際交流	山内 ひさ子	共同	2	効果的海外語学研修プログラム開発の研究
	国際交流	小井川 広志	共同	1	グローバル人材育成プログラムの国際比較研究: 本学への効果的導入に向けて
	国際交流	山田 健太郎	共同	3	地域と連携した大学教育プログラム創設のための基礎的研究
	栄養健康	四童子 好廣	共同	2	非環式レチノイドによる脳由来栄養因子受容体遺伝子のエピジェネティックな発現調節
	栄養健康	富永 美穂子	共同	1	大学生の食生活力育成支援に関する研究
	栄養健康	中村 禎子	共同	1	難消化性糖質摂取による腸内細菌叢の変化ならびにその代謝産物を介した下痢抑制作用の要因探索に関する研究
	国際交流	関谷 融	個人	1	「教職履修カルテ」の作成及び運用
栄養健康	綱分 憲明	個人	1	105km佐世保・島原間ウォークラリー時の身体活動強度およびエネルギー消費量-特に20歳代初参加者を対象として-	

研究種目	研究代表者		共同・個人 の別	研究 期間 (年)	研 究 課 題
	学 科	氏名			
一般課題研究	国際交流	上村 俊彦	共同	1	英語エキスパートプログラムの構築とその応用研究
	看護	中尾 八重子	共同	1	健康づくり推進員の主体化に関する研究
	看護	家永 愛子	共同	1	看護系大学生の看護技術に対するイメージの変化
	看護	山口 多恵	共同	1	臨地実習に活かせるコミュニケーションスキル育成の基礎的研究 共感性との関連における検討
	栄養健康	森田 茂樹	共同	1	チーム医療特に栄養サポートチームの確立について
	栄養健康	西明 眞理	共同	1	人の咀嚼・嚥下過程における表面筋電位に関する基礎的研究
	栄養健康	古場 一哲	共同	1	新規の共役リノレン酸の生理作用に関する研究
	栄養健康	駿河 和仁	共同	1	授乳期の低栄養状態が仔ラットの栄養素吸収・代謝機能に及ぼす影響に関する研究
	栄養健康	山口 範晃	共同	1	脂肪細胞におけるビタミンA代謝の調節機序に関する研究
	国際交流	下野 孝文	個人	1	世界遺産のあり方に関する一考察： 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」保存・管理のあり方をめぐって
	国際交流	河野 健一	個人	1	「EU域外の和解にも貢献するドイツの国際教科書研究所—その実績の検証と東アジアの将来への教訓」
	国際交流	荻野 晃	個人	1	ポスト冷戦期のNATO： 中・東欧の民主主義と平和
	国際交流	福島 涼史	個人	1	長崎県にとっての生物多様性—ツシマヤマネコ保護活動が示すもの—
	情報メディア	永野 哲也	個人	1	フィンスラー空間とリーマン空間の関係
	情報メディア	實原 隆志	個人	1	個人情報を私人が扱う場合の憲法上の問題
	看護	李 節子	個人	1	長崎における医療通訳人材育成に関する基盤研究
	看護	河口 朝子	個人	1	ハンセン病回復者の差別感情とストレス対処能力
	看護	林田 りか	個人	1	幼児と母親のQOL ～調査票の開発とQOLの比較～
	看護	永峯 卓哉	個人	1	看護が必要とされる状況での気づきと注意スタイル・社会的スキルとの関連性
	看護	大重 育美	個人	1	乳幼児をもつ父親の子どもの不慮の事故防止に関する基礎的研究
栄養健康	上田 成一	個人	1	輸入土壌改良材中の耐熱性カビと果実汚染に関する研究	
栄養健康	加藤 滋子	個人	1	慢性腎臓病(特に肥満関連腎症)患者のミネラルバランスの検討	
基礎調査研究	国際交流	松尾 晋一	個人	1	18世紀末～19世紀初頭の日本を取り巻く情勢変化と対馬
	情報メディア	森田 均	個人	1	長崎のメディア・イベント関連映像を再利用可能なデータとして蓄積するための予備調査
	看護	立石 憲彦	個人	1	シネエデュケーションによる医学教育の効果
	栄養健康	武藤 慶子	個人	1	母親の食行動変容過程および食情報が子どもの食生活・食習慣形成にあたる影響

## 佐世保市と長崎県立大学の包括連携協定について

項目	内容
協定締結日	平成22年 4月 7日
目的	大学と佐世保市が、相互の資源を活用した連携を推進することで、県北地域における学術研究機能の向上、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	① 共同研究・受託研究に関すること ② 地域貢献の取り組みに関すること ③ 人材育成・交流に関すること ④ その他、本協定の目的を達成するために必要な事項

## 【事業一覧】

## ○平成22年度

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	佐世保市の地理空間情報を活用した地域課題の調査・研究事業
地域政策学科	西村 千尋	事業所における健康づくり状況調査（入力・集計・分析事業）
経済学科	伊達木 瀧之助	地域経済動向分析
流通・経営学科	宮地 晃輔 山口 夕妃子	黒島オリーブを活用した製品開発について
栄養健康学科	田中 一成	バイオマス利活用に関する摘果みかんの機能性成分分析
地域政策学科 〃 経済学科 〃	石川 雄一 車 相龍 伊達木 瀧之助 綱 辰幸	佐世保市の統計調査結果を活用した分析手法の検討

## ○平成23年度

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	佐世保市の地理空間情報を活用した地域課題の調査・研究事業
経済学科	伊達木 瀧之助	地域経済動向分析
地域政策学科 〃 経済学科 〃	石川 雄一 車 相龍 伊達木 瀧之助 綱 辰幸	佐世保市の統計調査結果を活用した分析手法の検討
地域政策学科 経済学科	畑田 和佳奈 水野 倫理	佐世保市協働推進政策に関するアンケート調査事業
地域政策学科 〃 経済学科	石川 雄一 車 相龍 綱 辰幸	佐世保市の広域合併に関する効果と課題の検証事業
地域政策学科	山田 千香子 吉居 秀樹	黒島集落調査
地域政策学科	石川 雄一	名切地区住民意識調査

新上五島町と長崎県立大学の包括連携協定について
-------------------------

項 目	内 容
協定締結日	平成19年11月 2日
目的	大学と新上五島町は、相互の発展のため、地域振興、教育、健康福祉及び学術等の分野で協力する。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	① 地域政策、まちづくりに関すること ② 教育及び人材育成に関すること ③ 生涯学習に関すること ④ 地域産業の振興に関すること ⑤ 健康福祉に関すること ⑥ 地域情報化に関すること ⑦ 学術研究に関すること ⑧ インターンシップ等現地学習に関すること ⑨ 施設の利用に関すること ⑩ その他両者の協議により定める事項

## 【実績一覧】

## ○平成 21 年度

学科	担当教員	事業名
看護学科	正木 基文	働き盛りの生活習慣病予防対策への取り組み
情報メディア学科	吉光 正絵	新上五島町ポータルサイトコンテンツ拡充事業
地域政策学科	長沼 信之	限界集落の実態調査及び将来のあり方の検証
地域政策学科	畑田 和佳奈	「協働のまちづくり」について

## ○平成 22 年度

学科	担当教員	事業名
情報メディア学科	吉光 正絵	新上五島町SNS「してみっか」拡充事業
地域政策学科	畑田 和佳奈	協働のまちづくり推進事業
地域政策学科	阿部 律子	世界遺産登録推進事業
栄養健康学科	正木 基文	健康支援プログラムの開発

## ○平成 23 年度

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	正木 基文	健康支援プログラムの開発
看護学科	吉田 恵理子	日常生活圏域における地域と高齢者のアンケート調査と分析
看護学科	稗圃 砂千子 藤丸 知子	障害者へのアンケート調査と分析、打開策検討
地域政策学科	阿部 律子	世界遺産登録推進事業
地域連携センター	田中 一成	地域イントラネットを利用した人材交流事業
地域政策学科	畑田 和佳奈	協働のまちづくり推進事業
情報メディア学科	吉光 正絵	新上五島町SNS「してみっか」拡充事業

長与町と長崎県立大学の包括連携協定について
-----------------------

項 目	内 容
協定締結日	平成23年11月28日
目的	大学と長与町が、相互の資源を活用した連携を推進することで、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域政策、まちづくりに関すること</li> <li>② 教育及び人材育成に関すること</li> <li>③ 生涯学習に関すること</li> <li>④ 地域産業の振興に関すること</li> <li>⑤ 健康福祉に関すること</li> <li>⑥ 地域情報化に関すること</li> <li>⑦ 学術研究に関すること</li> <li>⑧ 施設の利用に関すること</li> <li>⑨ その他両者の協議により定める事項</li> </ul>

○ 23年度は実績がなく、24年度から取り組む。(H24.3月に連携推進会議を開催。)

- ・ 県の地域コミュニティ再生事業の取り組みの1つとして、本学の教授がコーディネーターとなって、「長与町協働のまちづくりシンポジウム」を開催。

日時：2011年11月16日

場所：長与町民文化ホール

川棚町と長崎県立大学の受託研究について

【研究名称】

川棚町観光施設の現状分析、及び経営分析と経営管理に係る調査研究

【研究概要】

- ① 施設の経営的分析と経営管理について  
「くじゃく荘」、「しおさいの湯」の施設利用状況等のデータを基に、担当教員それぞれの専門分野から分析し、提言を取りまとめる。
- ② 観光施設に関する現状分析・調査  
町内観光施設の現状を分析するとともに、スポーツ施設を活用した観光地・宿泊施設等を視察し、川棚町の現状と比較し、提言する。

【研究実施期間】

平成23年4月1日から平成25年3月31日まで（2ヵ年）

【受託者】

流通・経営学科 岩重 聡美

センター長挨拶
センター紹介
組織構成
産学官連携
生涯教育(公開講座等)
活動状況
アクセスマップ
リンク集
お問い合わせ
学内の方へ

附属図書館  
 国際交流センター  
 地域連携センター  
 教育開発センター  
 東アジア研究所

## 長崎県立大学 地域連携センター

〒851-2195  
 長崎県西彼杵郡長与町  
 まなび野1-1-1  
 TEL 095-813-5500  
 FAX 095-813-5220

## 流通・経営学科、地域政策学科教員が総合アドバイザーを務める地域コミュニティ再生事業に関する番組が放送されます

[地域連携センター](#) > [活動状況](#) > [活動状況\(産学官連携部門\)](#) >  
[流通・経営学科、地域政策学科教員が総合アドバイザーを務める地域コミュニティ再生事業に関する番組が放送されます](#)

長崎県の主要事業のひとつである『「元気！ながさき」地域・コミュニティ応援事業（地域コミュニティ再生事業・事業期間：平成23年度～25年度）』において、[流通・経営学科 村上教授](#)と[地域政策学科 車准教授](#)が、モデル地区として選定された西海市中山地区、長与町南コミュニティ地区の総合アドバイザーを務めています。

今回、西海市中山地区の取り組みの様子が、NCC長崎文化放送の特集番組で放送されます。皆様、ぜひご覧下さい。

## 【番組内容等詳細】

「未来も照らせ！～西海市・中山郷のまちづくり～」 NCC長崎文化放送（地デジ5ch）

## （初回放送）

平成24年1月 8日（日） 15：30～15：45

## （再放送）

平成24年1月13日（金） 10：30～10：45  
 平成24年1月20日（金） 10：30～10：45  
 平成24年1月27日（金） 10：30～10：45  
 平成24年2月 3日（金） 10：30～10：45  
 平成24年2月10日（金） 10：30～10：45  
 平成24年2月17日（金） 10：30～10：45



また、長崎県のホームページの「よかテレ」7chでもご覧になることができます。

『「元気！ながさき」地域・コミュニティ応援事業』について

- ※ 「元気！ながさき」地域・コミュニティ応援事業
- ※ [政策横断プロジェクト](#)>地域が輝く長崎県



## II. 主要事業の概要 3. 地域が輝く長崎県

### 「元気！ながさき」地域・コミュニティ応援事業

- ◆事業主体：長崎県
- ◆対象地域：県内全域
- ◆事業期間：平成23年度～25年度

目的	地域コミュニティの活性化を図るため、地域づくり活動への県民参加を促進するとともに、県・市町協働のモデル事業として関係者が連携した「新たな地域コミュニティづくり」を推進する。
事業概要	<p>1 地域コミュニティの活性化に向けた新たな仕組みづくり</p> <p>○地域コミュニティの活性化を図るため、自治会をはじめ地域コミュニティを担う関係者連携のもと、県市町協働のモデル事業を実施し、「地域コミュニティの再生」に取り組み、県内各地域への展開につなげる。</p> <p>2 外部からの応援による課題解決への取組</p> <p>○「地域づくり」に対する県民の理解を得るため、地域づくり講座や情報発信を実施するとともに、地域の課題解決を図るため、「地域を応援したい団体等」と「外からの支援・交流を求める地域」とを結び付ける取組を実施する。</p> <p>3 地域コミュニティを支える基盤維持への取組</p> <p>○コミュニティ活動の基盤となる自治会への加入促進や活動の活性化を図るため、自治会活動研究等を市町と連携して実施</p>
今後の取り組み	県市町が連携し、地域住民と一体となって「新たな地域コミュニティづくり」の推進を図る。
事業費	平成23年度 10,678千円
問い合わせ先	企画振興部地域振興課 095-895-2245

## 平成23年度「地域イノベーション戦略推進地域」及び「地域イノベーション戦略支援プログラム」の採択にかかる取り組みについて

- 文部科学省が、地域の特性を活かした持続的・発展的なイノベーション創出に向けた主体的な取組に対し、関係府省の施策を総動員して支援を行う「地域イノベーション戦略推進地域」について、長崎県を含む、24地域を選定。

【地域名】ながさき健康・医療・福祉システム開発地域

【目的】健康・医療・福祉分野での新産業の創出

【構成機関】

産：長崎県商工会議所連合会 長崎県商工会連合会 長崎県中小企業団体中央会  
 学：長崎大学(実施機関) 長崎県立大学 長崎総合科学大学 佐世保工業高等専門学校  
 金：十八銀行 親和銀行  
 官：長崎県 長崎県産業振興財団(総合調整機関および実施機関)

【国の支援(地域イノベーション戦略支援プログラム)内容について】

- (1) 中核を担う研究者の集積にかかる経費支援
- (2) 地域戦略実現のための人材育成にかかる経費支援
- (3) 大学の知のネットワーク構築にかかる経費支援
- (4) 地域の研究機関等での設備共用化支援にかかる経費支援

【支援期間】

5年

- 上記支援「(1)中核を担う研究者の集積」において、本学に1名研究者が配置  
 永田保夫氏(栄養生化学、医療用機能性食品の開発)  
 ※雇用は長崎大学。

〇目的

健康・医療・福祉分野での新産業の創出

<長崎クラスター>の形成  
従来産業の高度化、次世代産業の創出  
研究機能の集積  
産学官連携支援者の集積

〇背景

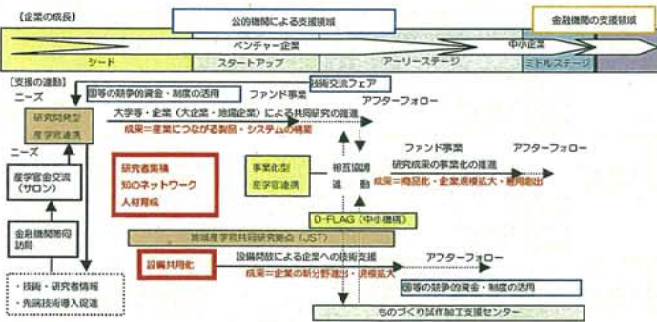
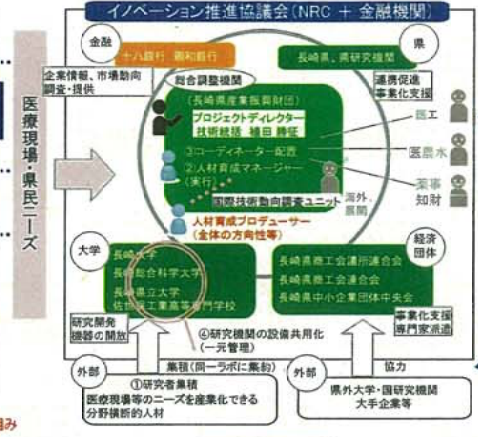
・地理的特性（島嶼・へき地、アジア隣接）・地域資源（農林水産物）

〇現状

研究開発により成果の芽はでつつあるが、事業化につながるブレークスルーに至っていない

〇地域イノベーション戦略実現への課題

- ・横断的研究開発強化
- ・産学官連携強化
- ・研究者
- ・経営者の交流の活性化
- ・ハイレベルなコーディネーター育成



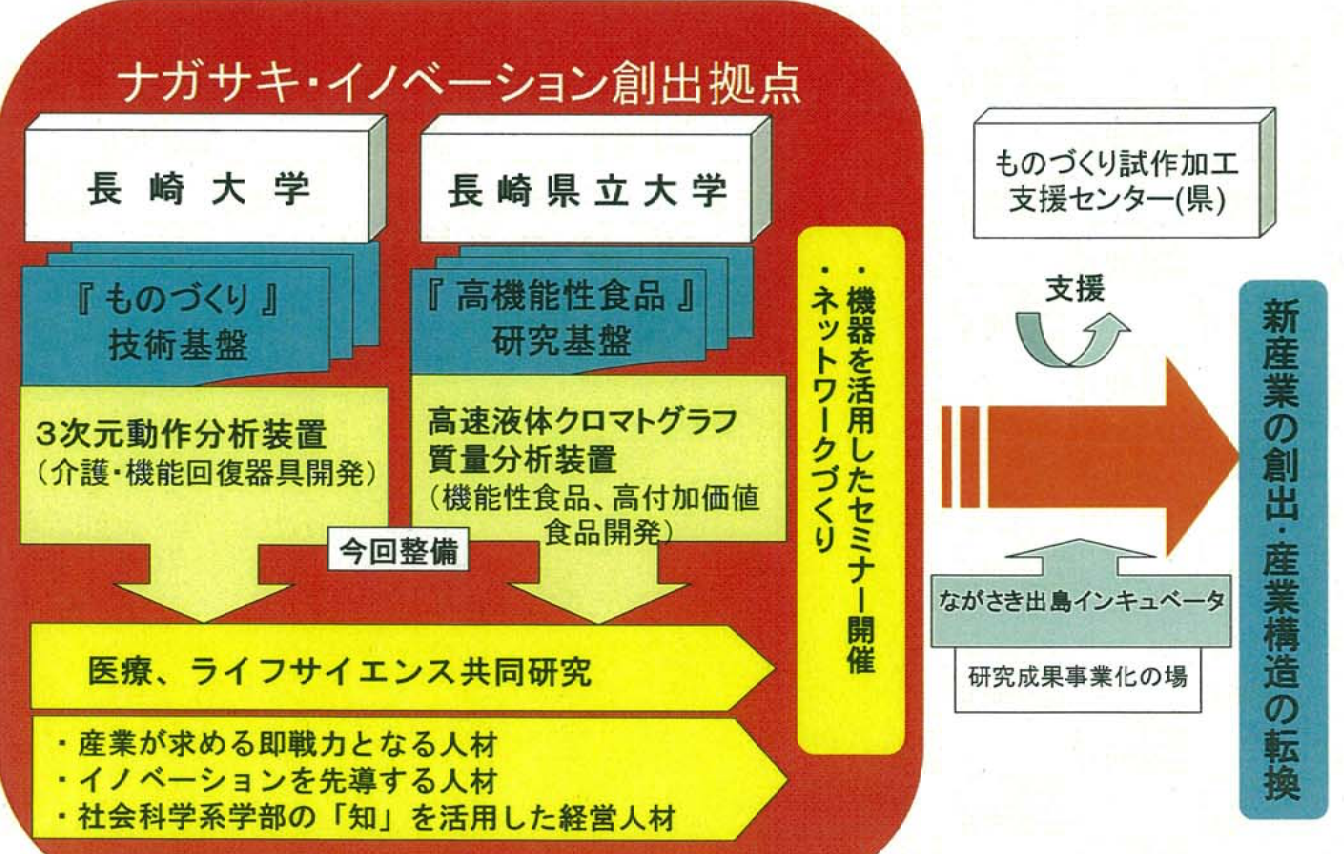
**目標値**

1 特許出願数	3年後	17件	→	5年後	24件	→	10年後	53件
2 事業化数	3年後	7件	→	5年後	15件	→	10年後	18件
3 ベンチャー創出数	3年後	2社	→	5年後	4社	→	10年後	4件
4 企業集積数	3年後	7社	→	5年後	15社	→	10年後	33社
5 研究者・技術者集積	3年後	4人	→	5年後	6人	→	10年後	13人
6 経済効果							10年後	57億円
7 雇用効果							10年後	157人

**国にお願いする支援：ヒューマンソフトの充実**

- ・医療ニーズを産業視点で研究開発できる人材の招聘
- ・医科学と工学のハイブリットパワー人材、MOT人材
- ・医療・福祉機器開発、機能性食品開発コーディネーターの配置
- ・医療・薬事・知財支援・海外展開支援コーディネーターの配置
- ・地域の研究機関等での設備共用化支援：技術支援スタッフの配置

2. 地域産学官共同研究拠点の概要



○国から選定された「長崎県EV・PHVタウン構想」\*の主要プロジェクトとして、世界遺産候補を有する五島地域において、EV(電気自動車)等とITS(Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム)が連動した未来型のドライブ観光システムを実現

\*平成21年3月31日に全国から本県を含む8都府県を選定。平成22年12月6日、新たに全国から10府県が選定された。

目的: ①EVと観光ITSの実配備・運用、②地域発で全国に通用するルール化・標準化を行うプロジェクトの遂行、③環境、観光を軸とした地域振興・産業振興の実現、④エネルギーシステムとEVに係るモデル実証 等  
 推進体制: 慶應義塾大学の川嶋弘尚名誉教授を会長に、学識経験者、自動車メーカー、カーナビ・電機メーカー、地場企業、業界団体、行政機関・地域等による連携組織「長崎EV & ITSコンソーシアム(長崎エビッツ)」\*を立ち上げ、その中にワーキンググループ(WG)\*を設置

\*平成21年10月8日に99団体の賛意を得て設立。(H23.10.17現在、197団体)

\* WG1「EV・充電設備関連」、WG2「ITSインフラ関連」、WG3「コンテンツ関連」、WG4「エコアライド関連」の4つを設置。

## ★ プロジェクト概要

### ◎ 現状(平成22年度末)

- 五島地区のレンタカー等に、EVを117台、PHVを2台導入。
- 急速充電器を8箇所15基、200V充電設備を22箇所29基整備。
- 地元の観光情報をITSスポット対応カーナビを通じて発信。上・下五島に各10のおすすめ観光ルートを設定

### ◎ 平成23年度

- EVを21台追加導入。
- 急速充電器を6箇所12基整備。
- ITSスポット、観光情報プラットフォームを整備し、観光情報等を配信。
- これまでにレンタカーとして、12,146台の利用実績(平成23年8月末)

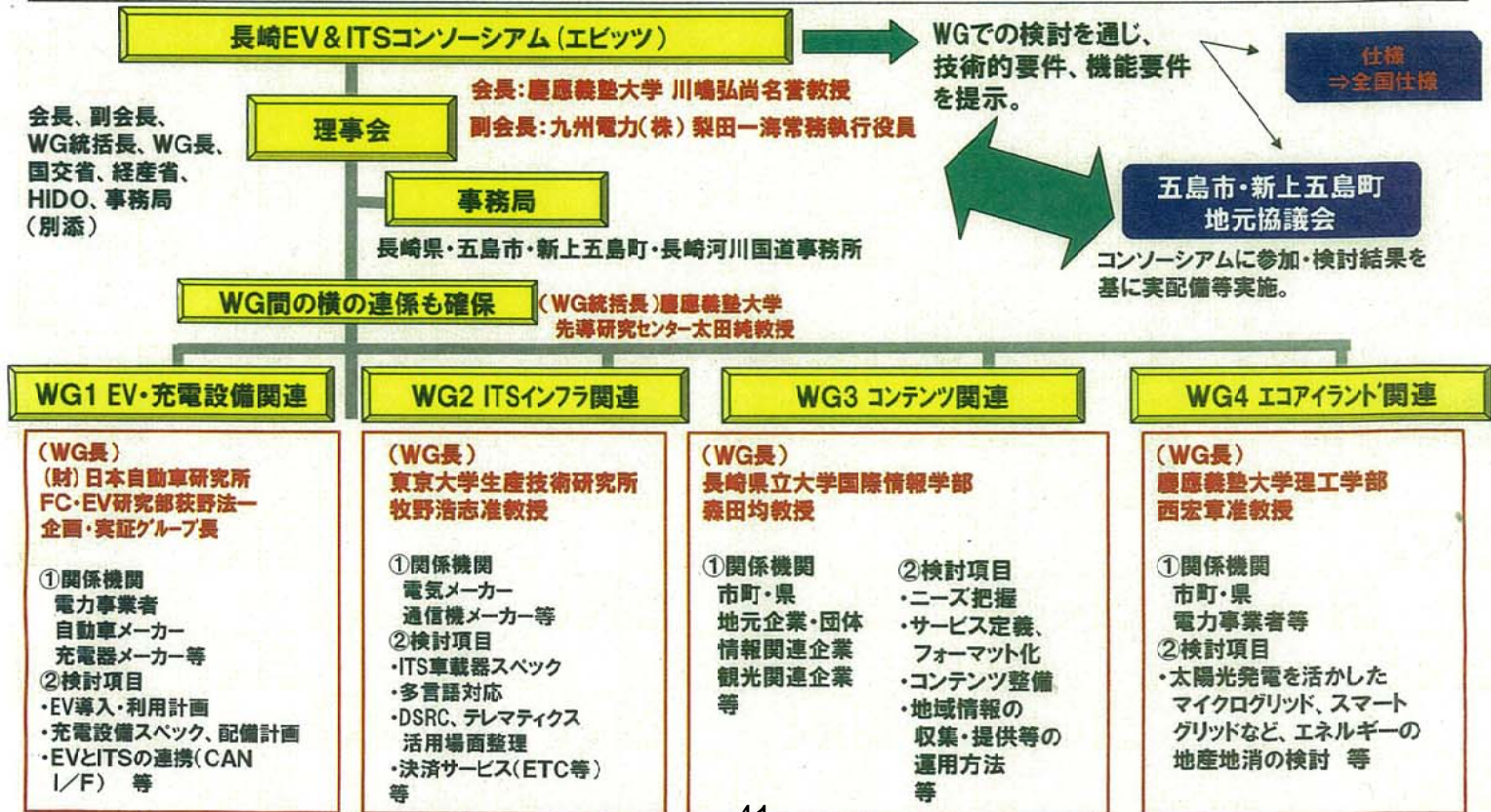
## 長崎EV & ITS(エビッツ):未来型ドライブ観光のイメージ

### ITSで実現する地域主体の観光サービス



## 長崎EV & ITSコンソーシアム(長崎エビッツ)の目的と推進体制

目的: <EVと観光ITSの実配備・運用>、<地域発で全国に通用するルール化・標準化を行うプロジェクトの遂行>、<環境、観光を軸とした地域振興・産業振興の実現>、<エネルギーシステムとEVに係るモデル実証> 等



・各WGの参加メンバーを募集中

長崎県産農産物等食味分析実践事業にかかる共同研究について

- 県（農産園芸課）が「平成23年度緊急雇用創出事業臨時特例基金事業」の中で実施する「長崎県産農産物等食味分析実践事業」において、県が研究職職員を1名雇用し本学に派遣、味認識装置（東棟5階 E510共同実験室に設置）を活用し共同研究を行った。

【事業目的】

近年、農産物や加工食品への適用が広がっている「味覚センサー」を用いて県産品の味覚の特徴を明らかにし消費者に対して「おいしさ」を客観的に提供できる資料を得て販売戦略への活用を図る

【事業期間】 平成23年9月～平成24年3月

【調査結果】

- 味覚センサーを活用し、食品（ジャム、すももジャム、さとうきびシロップ、柑橘ジュース、みかん、びわ、じゃがいも、人参、ミニトマト、中晩柑）の味覚分析を行い、各食品の有効な味覚項目（酸味、苦味雑味、渋味刺激、旨味、塩味）の一覧を作成した。
- 研究成果情報の活用事例として、「スモモのジャム加工適性」や「サトウキビの品種別およびアクトリ処理法の違いによる黒糖シロップの品質」等の品質や食味の調査を行った。

センター長挨拶
センター紹介
組織構成
産学官連携
生涯教育(公開講座等)
活動状況
アクセスマップ
リンク集
お問い合わせ
学内の方へ

附属図書館  
国際交流センター  
地域連携センター  
教育開発センター  
東アジア研究所

#### 長崎県立大学 地域連携センター

〒851-2195  
長崎県西彼杵郡長与町  
まなび野1-1-1  
TEL 095-813-5500  
FAX 095-813-5220

## 国土交通省の「平成23年度ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業」に採択されました

地域連携センター > 活動状況 > 活動状況(産学官連携部門) >

国土交通省の「平成23年度ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業」に採択されました

国土交通省の「平成23年度ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業」において、下記のとおり現地事業として選定されましたので、お知らせします。

### 記

#### 1. 実施主体

長崎市LRTナビゲーション推進協議会

代表者 長崎県立大学国際情報学部 教授 森田 均

協議会参画団体

長崎電気軌道株式会社、国、長崎県、長崎市、長崎県立大学、扇

精光株式会社

協議会発会：平成23年7月

#### 2. 実施箇所

長崎県長崎市

#### 3. テーマ

3G回線を利用した路面電車・利用者双方向位置情報配信システムによる歩行者移動支援サービス

#### 4. 提案内容

【情報提供の対象者】

高齢者、障がい者

【提供するサービス内容】

バリアフリールート、多目的トイレの有無、施設のバリアフリー対応状況、医療機関情報の提供

【場所情報コードの活用方法】

現在地から目的地までのバリアフリールートや各施設のバリア情報などの提供に活用

【歩行者の位置特定方法】

GPSから発信される位置情報を携帯端末で受信

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

段差、幅員等のバリア情報を利用し、注意喚起等に活用



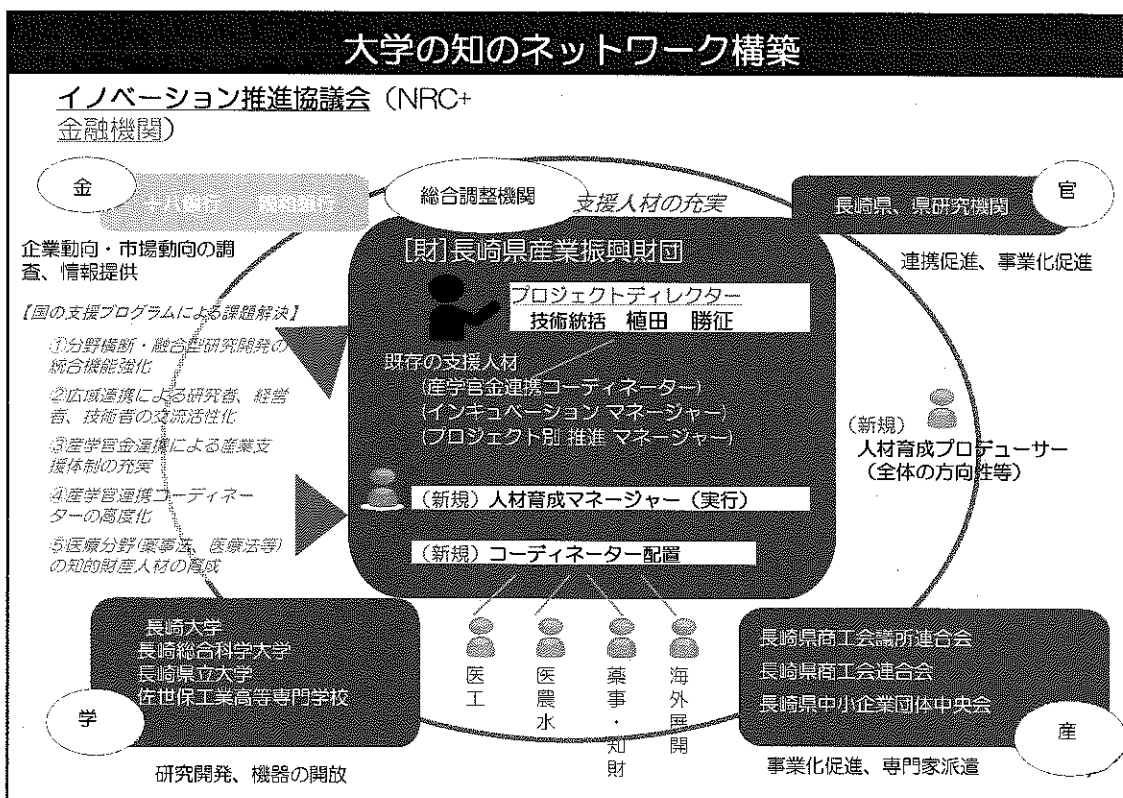
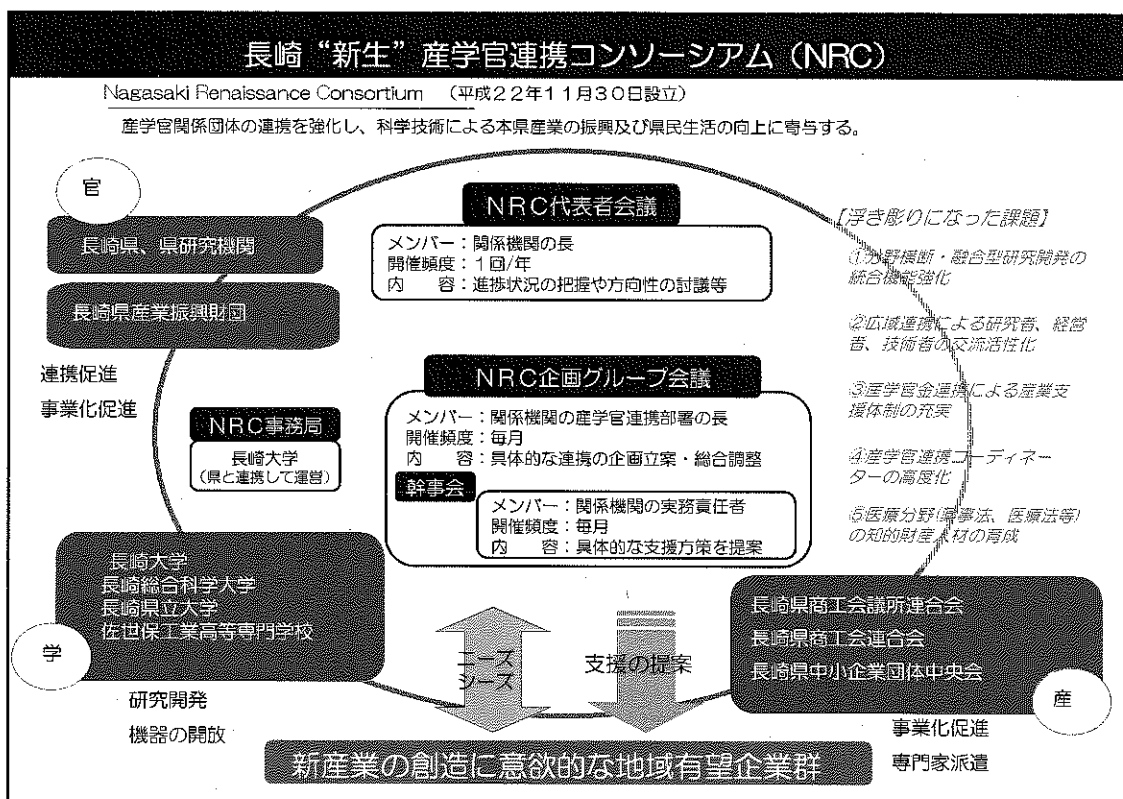
#### 5. その他

• 長崎電気軌道株式会社ホームページ

• 国土交通省ホームページ

「ICTを活用した歩行者の移動支援の推進 ～ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援の推進～」

• 長崎市役所ホームページ 「長崎市の交通」



平成23年度

第2回

産学官金連携サロン  
in 長崎県立大学

# 機能的食品開発 セミナー・交流会

平成23年

12月12日(月)

15:30~(受付 15:00~)

参加費無料

会場

長崎県立大学シーボルト校

長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1

対象

企業、農水産物生産者、大学等研究機関、  
その他機能的食品に関心のある方

長崎県立大学では、機能的食品開発研究を基盤とし、医療、ライフサイエンスと連動した共同研究、人材育成機能を備えた拠点として、県内の食品に関わる生産者や事業者のみならず、自治体等と連携し、付加価値の高い、新たな食品産業の創世による地域活性化に貢献するため、セミナーを開催します。本セミナーが産学官連携による新技術や製品開発、そしてビジネス展開の一助となれば幸いです。みなさまのご参加をお待ちしています。

## 第1部

## 機能的食品開発セミナー

会場/中央棟M103教室

15:30~15:40

主催者挨拶

15:40~16:40

## 『長崎の地域特性を活かした機能的食品の開発』

機能的食品、サプリメントの現状を示しながら、長崎県の地理と農水産物を活かした機能的食品開発の進め方について提案します。

永田 保夫氏

長崎大学産学官連携戦略本部教授  
長崎県立大学栄養健康学科客員教授

16:40~16:50

休憩

16:50~17:10

## 『LC/MS/MSの活用について』

本学におけるLC/MS/MSを用いた研究例を紹介いたします。

田丸 静香氏

長崎県立大学栄養健康学科助教

17:10~18:10

## 『地方大学の産学官連携の共同研究の現状・課題・今後について』

宮崎県における産学官連携の共同研究について、宮崎大学産学連携センター長として長年活動して来た経験から、その目的・現状・課題・今後について、成功事例などを含めながら紹介します。

福田 亘博氏

宮崎大学名誉教授

## 第2部

## 試食交流会

会場/学生会館カフェテリア

県の公設試験研究機関や県内大学等が開発に関わった高機能発酵茶「ワンダーリーフ」や「つばき茶」の試飲、長崎県総合水産試験場が開発した製法(特許出願)で製品化されたイカのすり身入りの「長崎おでん」など、試食体験を交えた気さくな交流会です。研究者と企業、生産者の方との人的ネットワークを築くとともに、シーズとニーズのマッチングの場を提供します。

●問い合わせ先

ナガサキ・イノベーション創出拠点 TEL 095-813-5500  
長崎県立大学地域連携センター(総務企画課取次)お申し込みは  
裏面の  
参加申込書を  
ご利用ください。長崎県立大学  
UNIVERSITY OF NAGASAKI

(主催) 長崎“新生”産学官連携コンソーシアム(NRC)

長崎県立大学、長崎県、長崎大学、長崎総合科学大学、佐世保工業高等専門学校、  
長崎県商工会議所連合会、長崎県商工会連合会、長崎県中小企業団体中央会、  
長崎県産業振興財団、十ノ川、親和銀行

もつと未来の可能性へ






[トップページ](#)
[研究課題と業務報告書](#)
[研究の成果](#)
[研究報告\(論文\)](#)
[ニュースレター](#)
[組織体制](#)

- ・管理部門

- ・研究企画部門

- ・干拓営農研究部門


- ・農産園芸研究部門

- ・森林研究部門

- ・環境研究部門

- ・果樹研究部門

- ・畜産研究部門

[沿革](#)
[交通アクセス](#)
[リンク](#)
 [新聞報道](#)
 [イベント、来訪](#)
 [気象観測データ](#)
 [農林資料館](#)

## 新聞報道

### ツバキで健康増進 茶葉と混合「発酵茶」に

2012年(平成24年)3月18日

「県の花木」であるツバキは、五島列島に多く自生しており、つばき油の生産量は伊豆諸島と全国1、2位を競っている。また、昨年から大手化粧品会社のヘアケア商品の原料として採用されるなど、商品化が進んでおり、五島市は、ツバキ植栽による耕作放棄地の解消や観光資源への利活用など地域の活性化に積極的に取り組んでいる。

県農林技術開発センターは、長崎大、県立大などと共同でツバキを活用した新たな特産品の研究に取り組んでいる。その結果、ツバキの葉と五島で栽培されている茶葉とを混合発酵することで、新たな機能性や香味を生み出す新しい加工技術を開発し、「ツバキ混合発酵茶」を製品化したので、概要を紹介する。

ツバキ茶と茶葉との混合割合や加工時間などを検討し、消費者からおいしく感じてもらえる最も食味が優れる加工工程を確立するとともに、大学と共同でツバキ混合発酵茶の成分と健康機能性解明にも取り組んだ。

動物実験で、ツバキ混合発酵茶が小腸からの脂質や糖質の吸収を阻害し、体脂肪減少、中性脂肪濃度低下、血糖値上昇抑制の効果が明らかになった。ヒトでも、食後の血糖値上昇が抑制されることが確認された。食品としての安全性については、細胞、動物およびヒトの各段階で第三者機関での試験も含めて検証し安全であることを確認した。

このような経過を経て、ツバキ混合発酵茶は安全でおいしく健康機能性をもつ五島の地域特産物として製品化されることとなった。

五島茶を栽培・販売している五島茶生産組合がツバキ混合発酵茶の製造に取り組み、昨年12月から「五島つばき茶」として地元でのふるさと小包便や店舗などで販売を行っている。また、首都圏などでは、大手販売業者がインターネットやテレビショッピングなどで販売、好評を博している。



昨年12月に発売された「五島つばき茶」

## アジア・国際戦略に関する取組

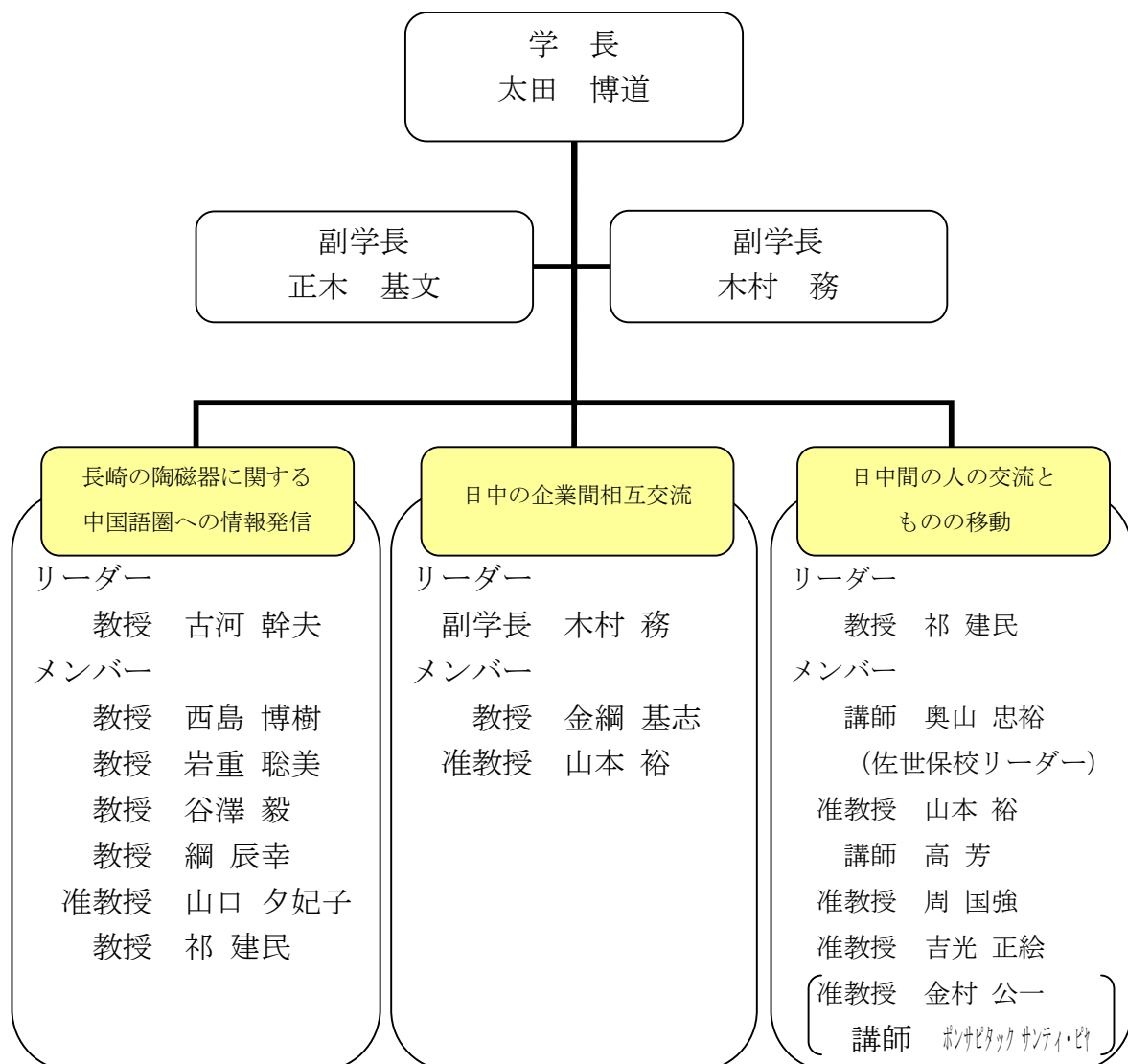
## 1. 学長プロジェクト研究

## ○趣旨

本学は、中期計画において、大学のシンクタンク機能を強化し、県や県内市町の政策課題への提言を行うことにより、地域貢献を果たしていくこととしている。「東アジア」に関する研究を重点課題研究としていることは、本学の特色の1つである。具体的には、東アジア研究所を設置し、東アジア地域の大学との連携を積極的に推進している。

一方、長崎県の政策課題の中でも、「アジア・国際戦略」は、最重要課題の1つである。これは本学にとって最も合致する政策課題であり、本学が県政推進に大きく寄与できる分野であるとする。11月初頭には、長崎-上海航路の試験航海も成功裏に終わり、長崎県の発展に大いに資するものと期待している。そこで、学長を中心に、東アジアの中でも特に経済成長が著しい中国に特化して、本学の知を結集した研究プロジェクトを立ち上げた。

## ○研究組織



## **2. 中国華僑大学MBAとの交流**

中国経済界との人的ネットワークを構築し、日中相互企業のビジネス活動を展開する契機とするため、中国華僑大学MBA連合会（若手企業家）との交流を下記のとおり深めた。

- 本学教員と華僑大学MBA連合会との意見交換会を実施

(H23. 11. 20 福建省)

- 佐世保市商工会議所と華僑大学MBA連合会とのビジネス交流会を実施

(H24. 3. 21～22 佐世保市)

## **3. 中国校友会の設立**

国際人として活躍している本学とかかわりのある卒業生などの意見や協力を得て、本学の教育研究の質を高めるとともに、人的なつながりを強め、ひいては長崎県と中国とのさらなる交流を促進するため「中国校友会（同窓会）」を上海市及び福建省に設立した。

- 長崎県立大学上海校友会設立総会

(H23. 11. 18 上海市)

- 長崎県立大学福建校友会設立総会

(H23. 11. 20 福建省泉州市)

## **4. その他**

「佐世保市外国人観光客ウェルカム協議会」の委員に本学教員が就任し、外国人観光客の受入について協議するなど、本県への観光客誘致に尽力した。

## 受託研究・共同研究一覧

## ○実施件数

(単位:件)

年度	受託研究	共同研究	備考
20年度	10	13	
21年度	8	9	
22年度	12	12	
23年度	12	11	
計	42	45	

※相手先や共同研究者に配慮し、件数のみ記載。

## 長崎県立大学プロジェクト研究費について

長崎県立大学の研究面でのより一層の活性化を目的として、両大学の今後の発展に資する学術研究を支援するため、期間3年を限度として本学の教員を対象とした公募により配分する研究費。

対象となる研究は、①「科学研究費助成事業(新学術領域研究)」など国等の研究費の申請になり得る研究、②本学の活性化や地域の課題に即した研究となっている。

[配分実績]

(単位: 件)

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
2	1	1	1

研究者		研究期間	研究題目
学科名	教員氏名		
研究代表者		H20～H22	しまの健康を守ろう ～上五島生き生きプロジェクト
栄養健康	正木 基文		
研究分担者			
経済	綱 辰幸		
地域政策	阿部 律子		
国際交流	松尾 晋一		
情報メディア	河又 貴洋		
情報メディア	吉村 元秀		
看護	藤丸 知子		
看護	大塚 一徳		
看護	堀内 啓子		
栄養健康	四童子 好廣		
栄養健康	富永 美穂子		

※研究分担者は平成22年度の実績です。

研究者		研究期間	研究題目
学科名	教員氏名		
研究代表者		H23～H25	しま生態系における人々の活動および資源の活用としまの持続的発展に関する研究
栄養健康	正木 基文		
研究分担者			
地域政策	奥山 忠裕		
地域政策	雪丸 武彦		
流通・経営	山本 裕		
情報メディア	C. ソムチャイ		
看護	山澄 直美		
栄養健康	森田 茂樹		
栄養健康	富永 美穂子		

※研究分担者は平成23年度の実績です。

## 交流協定校一覧

大学名	協定締結日	協定事業内容				
		学生交流 〔派遣・受入人数 期間〕	教職員 交流	共同 研究	シホ <sup>o</sup> ジウム等	刊行物等 の 交換
華僑大学  中国	1992年10月7日  (平成4年)	○	○	○	○	○
		〔計4名 規定なし〕			年1回 交互に 開催	
ウィスコンシン大学 オシュコシュ校  アメリカ	2001年9月28日  (平成13年)	○	○	○		
		〔各2名 半年又は1年〕				
上海外国語大学  中国	2002年10月17日  (平成14年)	○	○	○		
		〔各5名 半年又は1年〕				
東亜大学校  韓国	2004年4月1日  (平成16年)	○	○	○	○	○
		〔各2名 半年又は1年〕				
ニューカッスル大学  イギリス	2004年11月4日  (平成16年)	○				
		〔派遣のみ (人数規定なし) 半年又は1年〕				
高麗大学校  韓国	2004年12月2日  (平成16年)	○	○	○	○	○
		〔各2名 半年又は1年〕				
アモイ 厦門大学 日本研究所  中国	2006年12月7日  (平成18年)	○	○	○	○	○
		〔規定なし〕				
マカオ 澳門大学 社会人文学部  中国	2009年5月20日  (平成21年)	○	個別に 協議			
		〔計1~3名 規定なし〕				
西安外国語大学  中国	2011年3月1日  (平成23年)	○	○			
		〔各2名 1年以内〕				

※東亜大学・華僑大学と2011年締結した協定については6年毎に更新。それ以外の協定は5年毎に更新。

## シンポジウム・フォーラム開催実績一覧

年度	開催日	タイトル	場所	備考
20 年度	9月13日	第1回 長崎医療通訳フォーラム 「医療通訳の展望と可能性」 「日本における医療通訳の必要性」 「多文化共生時代の到来」	シーボルト校	主催：長崎県立大学 大阪大学 共催：(財)長崎県国際交流協 会、長崎県通訳案内士協会
	10月25日	国際学術交流シンポジウム 「東アジア企業の管理・経営問題」	華僑大学（中国）	華僑大学との合同開催
	11月1日	第2回 長崎医療通訳フォーラム 「医療通訳派遣制度・多言語医療受付支援システムM 3 IT実践報告」 「医療文化・ことばの壁を乗り越えながら」 「医療通訳の役割と心構え」	出島交流会館 （長崎市）	主催：長崎県立大学 大阪大学 共催：(財)長崎県国際交流協 会、長崎県通訳案内士協会
	1月10日	第3回 長崎医療通訳フォーラム 「長崎県通訳案内士の仕事～おもてなしの心」 「観光目的で来日した外国人重症患者のエンバールミ ング事例」 「地域特性と医療通訳体制－愛知県の事例から」	出島交流会館 （長崎市）	主催：長崎県立大学 大阪大学 共催：(財)長崎県国際交流協 会、長崎県通訳案内士協会
	2月27日	「長崎県立大学・離島研究シンポジウム in 上五島」	鯨賓館ホール （新上五島町）	主催：長崎県立大学 共催：新上五島町 後援：長崎新聞社
	3月22日	長崎県立大学メディアフォーラム 「生きるということ」	シーボルト校	主催：長崎県立大学国際情報 学部情報メディア学科
21 年度	11月15日	国際情報学部情報メディア学科主催シンポジウム 「新聞・テレビの現場で学び、考える」	シーボルト校	主催：長崎県立大学国際情報 学部情報メディア学科
	11月19日	国際学術交流シンポジウム 「地域経済活性化のための地域力の模索 －地域産業、地域流通、地域ブランド－」	佐世保校	華僑大学との合同開催
22 年度	11月22日	国際学術交流シンポジウム 「地域経済活性化のための地域力の模索」	華僑大学（中国）	華僑大学との合同開催
23 年度	5月12日	第5回東アジア世界化フォーラム 「東北アジア炭素関連市場と排出量取引制度」 —中国・日本・台湾・韓国の現状と展望—	東亜大学	主催：東亜大学
	11月10日	第1回東アジア学術交流フォーラム 「自然災害と東アジア」	佐世保校	華僑大学・東亜大学との 合同開催

東アジア研究所「東アジア研究ネットワーク」について
---------------------------

**【趣旨及び目的】**

「東アジア研究ネットワーク」は、東アジア研究を幅広くかつ円滑に進めるため、東アジア研究所（以下、研究所という）を拠点に、世界の研究者及び機関との連携を図ることが目的である。（※本研究所における「東アジア」とは、東北アジア・東南アジアなど広く意味する。）

**【研究者】**

国内外の大学・機関に在職し、本研究所の研究活動に賛同する者とする。本学の研究者には「研究員（Research Fellow）」、学外の国内研究者には「連携研究員（Cooperative Research Fellow）」、海外の研究者には「海外研究員（Overseas Research Fellow）」の称号を与え、共同研究の推進、研究者の紹介、情報や資料の交換、『東アジア評論』への投稿など、包括的な相互協力を行う。本学の研究員は、ネットワークの中で主導的に研究グループを形成し研究活動を行う。すべての研究者は、本研究所の研究者登録制度に基づいて研究者登録を行う。

**【研究者登録制度】**

研究者登録について、研究員は自薦とし、連携・海外研究員は研究員からの推薦によるものとする。すべての研究員は、指定の情報（プロフィール、研究業績一覧）を提供し、本人の許諾の上「東アジア研究者シート」を本研究所のホームページに公開する。登録の期限は一年とし、登録研究者から申し出がない限り、自動的に更新されるものとする。登録研究者間の仲介や連絡等については、関係の研究者同士または本研究所が行う。

**【登録研究者への優遇措置】**

- ・ 本研究所の各種研究会及び国際シンポジウムへの招待及び招聘
- ・ 本研究所の機関誌『東アジア評論』への掲載優先
- ・ 本研究所の刊行物の贈呈
- ・ 本研究所の事業や動向の個別案内

**【主要研究部門】**

研究内容は、東アジアと関係することを前提とし、下記の主要研究部門とする。

- ・ 貿易研究部門（政策、規制、関税、摩擦、自由化、WTO、FTA/EPA 等）
- ・ 金融研究部門（政策、制度、投資、為替、通貨統合等）
- ・ 産業研究部門（政策、規制、構造、集積、環境、連携、創出、国際観光等）
- ・ 企業研究部門（戦略、流通、物流、マーケティング、リスク、進出、R&D、M&A 等）
- ・ 地域研究部門（共同体、政治、外交、国際関係、法律、社会、文化等）



## 公開講座・地域公開講座・学術講演会実施状況

## ○公開講座

(単位:講座、人)

キャンパス	年度	講座	参加者	備考
佐世保校	20年度	11	241	
	21年度	17	395	
	22年度	13	283	新上五島町での受講者を含む
	23年度	10	261	新上五島町での受講者を含む
シーボルト校	20年度	11	294	
	21年度	17	653	
	22年度	13	415	
	23年度	10	333	

## ○地域公開講座

(単位:講座、人)

キャンパス	年度	講座	参加者	備考
佐世保校	20年度	20	507	
	21年度	17	485	
	22年度	11	341	
	23年度	20	519	
シーボルト校	20年度	17	829	
	21年度	16	858	
	22年度	22	908	
	23年度	27	1,129	

## ○学術講演会

(単位:講演、人)

キャンパス	年度	講演	参加者	備考
佐世保校	20年度	3	114	
	21年度	3	80	
	22年度	3	381	
	23年度	3	221	
シーボルト校	20年度	3	76	
	21年度	3	165	
	22年度	3	341	
	23年度	9	453	

## 教員の研究活動内容一覧(平成23年4月1日現在)

## 【経済学部】

## ●経済学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	伊達木 瀧之助	・社会経済動向の統計データによる実証研究(人口, 労働, 家計, 物価を中心に)
教授	木村 務	・持続可能な傾斜地農業(果樹・茶等)の産地システム ・離島農業の再生 ・農業協同組合の組織と事業方式
教授	古河 幹夫	・社会的価値と政策目標
教授	柳田 芳伸	・『マルサス人口論事典』の編集とマルサスの書誌的研究
教授	西 道彦	・貿易取引の電子化 ・グローバルSCM
教授	楊 光洙	・財政政策 ・地域観光 ・地域産業戦略
教授	綱 辰幸	・戦後わが国における租税政策 ・地方財政と介護保険
教授	矢野 生子	・R.Mundellの「貿易論」ならびに「国際金融論」に関する研究の考察
准教授	青木 圭介	・通貨統合後の金融政策波及効果と最適通貨圏理論の考察
准教授	有馬 弥重	・環境問題などに関する規制政策について
准教授	尹 清洙	・中国経済の多地域動学的応用一般均衡モデルの開発(学術振興会若手研究B:平成22年度~23年度) ・統計学と社会認識:易学への数学的接近
准教授	中村 和敏	・インドネシアの労働市場分析 ・インドネシアの中小企業
准教授	植野 貴之	・確実性および不確実性の下での多段意思決定過程における多様な評価系 ・経済学における再帰的方法 ・動的オプション価格評価
講師	長濱 幸一	・19世紀後半のハプスブルク帝国・ボヘミアにおける工業化と民族問題
講師	水野 倫理	・産業組織論の理論的分析

## ●地域政策学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	綾木 歳一	・放射線および環境汚染化学物質の突然変異誘発機構の解析 ・環境汚染化学物質による性的攪乱現象の調査研究
教授	秦 耕司	・インテンシブコースにおける中国語教材(教科書、副教材、補助教材)のあり方 ・老舎の作品に見られる中国語の表現 ・語学的視点より見た唐詩の解釈
教授	山田 千香子	・日系社会の文化変容 ・日系カナダ人のエスニシティ・多文化主義 ・島嶼の社会構造変容 ・エコツーリズムと地域づくり
教授	荻原 寛	・スペイン語とヴェネツィア方言との近似性の比較対照研究 ・マニラ湾沿岸部のスペイン語系クレオール形態・統語論および社会言語学的研究 ・在住外国人に対する言語サービスを始めとする多文化共生社会育成
教授	阿部 律子	・フランス18世紀啓蒙思想(ヴォルテール) ・フランス女性史、現代フランス女性論、現代フランス社会と文化 ・長崎とキリスト教
教授	上畑 良信	・ペスタロッチーに及ぼした啓蒙主義(J.G.ズルツァーほか)の影響に関する研究 ・教育者を事例とする人間形成の伝記的研究 ・人間形成と社会体験活動 ・戦後の教員養成教育 ・日本道徳教育史論
教授	宮崎 明人	・相対論的重力場の理論
教授	竹田津 進	・英語の語彙、文法の史的変化 ・電子コーパスを利用した言語変化 ・OED編集者の足跡と学風 ・英語教授法
教授	松岡 純子	・アジアの近代、「西欧の衝撃」 ・中国近現代文学における人間 ・日中比較文学
教授	吉居 秀樹	・英米法系(特にイギリス)における行政手続法(行政審判所、ADRを含む) ・情報法(情報公開・個人情報保護法)および地方自治法制の研究
教授	長沼 信之	・鉄鋼業における経営と労働 ・中小企業の能力開発 ・高齢者問題と地域社会
教授	岩清水 由美子	・ジョウゼフ・コンラッドの小説におけるジェンダー
教授	石川 雄一	・都市圏の社会経済的地域構造変容 ・人口の都心回帰と離島地域におけるIターンの動向
教授	山崎 祐一	・異文化間コミュニケーションを視野に入れた英語教育 ・英語(外国語)教育における異文化理解と国際交流 ・英語(外国語)学習と異文化理解に関するサービスラーニングと地域貢献

教授	西村 千尋	・自然環境を活かした地域づくり・健康づくり-九十九島を中心に-
教授(特任)	岡崎 寛	・健康とスポーツ環境
教授(特任)	長島 弘	・インド中・近世社会経済史、とくにインド洋海域貿易・交流史
准教授	内田 智子	・CALL ・マルチメディアを使った英語教育 ・20世紀アメリカ小説
准教授	車 相龍	・国土、地域政策の観点から見るイノベーション・システムの日韓比較
講師	畑田 和佳奈	・自治体の政策形成過程、市民と行政の協働(理論・制度分析)
講師	奥山 忠裕	・政策評価 ・政策分析
講師	雪丸 武彦	・小・中学校長の力量形成に関する研究 ・戦後就学行政の変容過程の研究
講師(特任)	スティーブン・エドワード・ライフ	・聞き取り理解におけるイントネーションの重要性、言語習得
講師(特任)	高 芳	・中国語表現法 ・中国語の男言葉・女言葉の変化 ・中国語の敬語
講師(特任)	トム・ウィラード・ローソン	・日本での英語教育におけるテクノロジーと英語コミュニケーション
講師(特任)	中村 吏花	・イギリス文学における“them”と“us”

## ●流通・経営学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	竹田 範義	・イギリス減価償却会計の理論史研究 ・19世紀イギリスの公益事業会計
教授	村上 則夫	・システムと社会情報に関する研究 ・IT社会の光と影 ・地域社会における社会情報化の研究
教授	西島 博樹	・小売国際化と流通構造の変容 ・地域商業振興
教授	岩重 聡美	・流通変革と消費者 ・消費問題の理念と現状
教授	金綱 基志	・多国籍企業における暗黙知の企業内移転メカニズムの探求
教授	谷澤 毅	・ドイツを中心としたヨーロッパ諸都市間の通商網・商品流通についての史的 研究 ・軍港都市史研究(キールと佐世保)
教授	宮地 晃輔	・環境管理会計技術の精緻化・高度化に関する研究
教授(特任)	田中 富志雄	・発展途上国の産業開発 ・国連開発援助による産業開発、市場開発 ・産業連関分析
教授(特任)	高橋 秀至	・無償取引にかかる法人税とブランド使用料 ・知的財産の価値評価と移転価格税制 ・租税法上の裁量
准教授	齋藤 光正	・商業経営経済学の歴史的発展
准教授	山本 裕	・定期船航路の輸送システムと輸送サービスについて ・離島交通(海運と空運)について ・港湾政策について ・ものづくりと物流システム
准教授	新川 本	・企業統治(corporate governance)に関する研究 ・企業の中核組織に関する研究
准教授	神保 充弘	・流通系列化に関する歴史的研究 ・日本企業の生成期マーケティングに関する研究
准教授	山口 夕妃子	・小売業の国際化・グローバル化問題の研究 ・アジアにおける流通企業の比較研究 ・グローバル・サプライチェーン・マネジメント研究 ・地域ブランド研究(九州・沖縄地域を中心に)
准教授	小形 健介	・米国企業結合会計基準設定プロセスの政治経済学的分析

## 【国際情報学部】

## ●国際交流学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	河野 健一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州連合(EU)を軸とする欧州統合の質的深化と拡大</li> <li>・EU内のイスラム系住民の動向とEUの対イスラム政策</li> <li>・米欧関係の再定義とNATOの今後</li> <li>・ドイツの対外政策及び社会労働政策の変化</li> <li>・トルコのEU加盟問題</li> <li>・ボスニア、コソボなど旧ユーゴ地域における紛争後の平和定着・民主化とEU加盟問題</li> <li>・パレスチナ、イラク、イランなど中東での紛争と戦後処理</li> <li>・ロシアの内政・外交と日ロ関係の動向</li> <li>・オバマ政権による米の外交・安全保障政策の新展開と日米安保の変質</li> <li>・国際紛争における武力行使の正当性と正統性</li> <li>・EUを参照frameworkとしたアジア共同体構想の基盤研究</li> </ul>
教授	山内 ひさ子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コミュニケーションと異文化間コミュニケーションの理論と教育研究</li> <li>・観光英語用CALL教材開発とブレンド学習効果に関する研究</li> </ul>
教授	瀬端 孝夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在日米軍と日米関係</li> </ul>
教授	李 炯喆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後日本のアジア認識と政策(吉田内閣～現在)</li> <li>・東アジアの安全保障</li> <li>・日韓新時代の政策</li> </ul>
教授	上村 俊彦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーパスベースの英語語彙研究</li> <li>・English Syntax</li> <li>・Humanities Computing(特に英語の研究・教育と情報リテラシー関連)</li> </ul>
教授	竹部 隆昌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11世紀におけるビザンツ領南イタリア情勢</li> </ul>
教授	下野 孝文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠藤周作研究</li> <li>・芥川龍之介研究</li> </ul>
教授	関谷 融	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジルにおける日本語教育の状況及び具体的なカリキュラムについての調査</li> <li>・携帯端末とコンピュータネットワークを組み合わせた自学システムの稼働実験</li> <li>・SEM(構造方程式)による、カリキュラム受容構造の分析</li> </ul>
教授	祁 建民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代内モンゴル自治・独立運動と日本</li> <li>・現代中国農村における社会結合と国家権力</li> <li>・満鉄調査部調査資料の総合研究</li> <li>・現代中国の政治運動と民衆</li> <li>・中日村落権力構造の比較研究</li> </ul>
教授	小長谷 英代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンスとジェンダー—ヴァナキュラーへの視点</li> <li>・民俗学／民俗芸能研究—日米の接点</li> </ul>
教授	小井川 広志	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア諸国の経済発展(香港・中国・マレーシア・フィリピンなど)</li> <li>・産業連関分析の経済開発問題への応用</li> <li>・多国籍企業と地場企業の企業間関係</li> <li>・企業家精神と途上国の経済発展</li> </ul>

教授	荻野 晃	・冷戦後の中・東欧諸国における安全保障、国防軍改革、政軍関係 ・欧州安全保障・防衛政策(ESDP) ・冷戦期のハンガリー外交
教授(特任)	山本 喜代治	・地域経済構造の理論的・実証的研究 ・元気の出るまちづくりと経済学の役割 ・長崎の地域経済構造の変容と今後の展望
教授(特任)	徐 賢燮	・中国東北3省の朝鮮族文化変遷
准教授	山田 健太郎	・アメリカ文学・表象文化研究(批評理論・南部文学・フォークナー研究) ・英語教育研究(通訳ガイド関連・英語教材)
准教授	周 国強	・長崎方言中の中国語語彙
准教授	唐津 理恵	・イギリス文化とサーカズムについて
准教授	松尾 晋一	・17～19世紀における江戸幕府の海防体制の展開 ・文化的景観に関する研究
講師	福島 涼史	・公法(国際法・憲法)における転換概念 -戦争と平和をめぐる-
講師(特任)	クリストファー ブラッドリー	・外国語教育方法と教員の精神性の関係について
講師(特任)	ピノ カトローニ	・日本人における外国語としての英語教育
講師(特任)	リチャード ホド ソン	・英語教育における効果的なユーモア教授法の研究
講師(特任)	ジョエル ヘンス リー	・外国語としての英語でのオンラインの非同期なフィードバック ・動的システム理論、そして人類の発展、言語習得、新興論、および 第二言語学習と教育での動的システム理論の応用

### ●情報メディア学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	伊藤 憲一	・カオス時系列データの解析手法に関する研究
教授	永野 哲也	・フィンスラー幾何学を用いた底空間の計量微分幾何学の研究
教授	香取 淳子	・映像コンテンツに対する字幕付与の新展開
教授	村上 雅通	・水俣病問題チッソ分社化後の課題と解決へのアプローチ ・東アジアメディアの共存と可能性
教授	辺見 一男	・モーションキャプチャの応用に関する研究

教授	チャットウィッチェンチャイ ・ソムチャイ	・既存 Excel 2007文書の検索語と意味の抽出方法に関する研究
教授	森田 均	・Web及びハイパーテキストに関する人文社会学的・工学的学際研究 ・ロボットに関する人文社会科学研究 ・アナログ・コンテンツのデジタル変換と活用法を模索する研究 ・メディアとバリアフリーに関する研究 ・ローカル・メディア及びコミュニティ放送に関する研究 ・上記を総合したメディア研究、コンテンツ研究
教授	庄山 茂子	・長崎市内の景観に関する意識調査 ・VDT画面の表示モードが作業効率と生理的・心理的反応に及ぼす影響 ・女性用看護服のデザインの違いが印象形成に与える影響について ・サングラスの色の違いによる色彩弁別能力の差異
准教授	金村 公一	・地域メディアとの連携による情報メディア教育の実績と展望 ・地域メディアと市民的公共圏の研究 ・地域におけるコンテンツ創造、保護、活用の実践的研究 (原爆資料館と共同研究)
准教授	柳田 多聞	・色覚障害にまつわる心理的ストレス ・コミュニケーションを促進する認知心理的要因
准教授	河又 貴洋	・グローバル国際政治経済における情報通信産業の規模、範囲およびネットワークの経済性 ・「創造性(Creativity)」に関する経済学的研究 ・『情報化のパラドックス』に関する理論的研究 ・情報ネットワーキングに関わる諸問題の調査研究
准教授	門部 昌志	・インターネット時代における能動的なオーディエンスの相対化
准教授	吉光 正絵	・現代日本の若者の準拠集団とポピュラー・カルチャーに関する好みに関する社会学的検討
准教授	吉村 元秀	・パターン認識の高汎化のための要素技術の研究および開発
講師	前村 葉子	・絵画画像における適応量子化電子透かし法の適用条件の検討
講師	藤沢 望	・音楽聴取の音質弁別課題に対する聴能形成訓練の訓練効果の検討
講師	實原 隆志	・「情報」と憲法学について
講師	ホンサピタックサン ティ・ピヤ	・アジアの都市のテレビ広告におけるジェンダーの文化価値観 —福岡・北京・台北・バンコクの国際比較—



## 【看護栄養学部】

## ●看護学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	貞森 直樹	・長崎原爆の精神的・心理的影響 －原爆被爆体験の死生観への影響－
教授	赤司 千波	・認知症対応グループホームにおける終末期ケアモデル作成に関する研究
教授	松本 幸子	・効果的な看護実践力教育 成人看護学学内演習に関する研究 長崎薬学・看護学連合コンソーシアムにおける多職種連携の実践力養成 ・看護倫理に関する教材研究
教授	藤丸 知子	・保健師教育の質を確保するための臨地実習の方法と要件に関する調査研究 ・地域看護学実習における学生の学びと到達度の検討
教授	李 節子	・多文化共生時代における母子保健・グローバルヘルスとそのケア構築に関する研究
教授	立石 憲彦	・遠隔医療の構築 ・電子カルテの構築
教授	大塚 一徳	・ワーキングメモリに関する認知心理学的研究
准教授	氏田 美知子	・看護師長のQOL調査と影響要因の研究
准教授	堀内 啓子	・長崎県開拓の歴史－入植者の生活を通して ・難病患者福祉の形成
准教授	島田 友子	・思春期教育前後の評価(小・中学生へのアンケート調査から) ・思春期教育前後の評価(中学校教師へのアンケート調査から) ・思春期教育前後の評価(小学生の睡眠に焦点を当てて) ・非定住者女性の健康観(科研) ・日本と中国の病院看護師数と病院運営指標の関連に関する統計的研究 ・双子をもつ父親の育児の現状と支援に関する考察 ・施設内分娩記録から見る中華人民共和国の出産状況と課題
准教授	中尾 八重子	・健康づくり推進員の主体化に関する研究
准教授	河口 朝子	・大学看護教員の職業性ストレス調査
准教授	林田 りか	・看護職と看護学生の喫煙に関する研究 ・学童の子をもつ母親の育児のQOL ・父親のQOL
講師	永峯 卓哉	・看護技術に関する研究 ・看護学教育方法に関する研究 ・協同教育・協同学習に関する研究 ・感染予防に関する研究(保育園および学生の感染予防) ・高齢者の体力およびQOLに関する研究

職名	氏名	現在の研究のテーマ
講師	吉田 恵理子	・エイジング・イン・プレイスに関する研究 ・協同学習・プロジェクト研究を活用した看護基礎教育に関する研究
講師	片穂野 邦子	・CHBM(チャンピオンの健康信念モデル)尺度の日本語版の検討 ・成人看護学実習前準備教育におけるシミュレーション学習による看護技術演習
講師	高比良 祥子	・看護技術学習ノート第2版を使用した教育効果の評価
講師	堂下 陽子	・災害看護実習における学生の学びと教育上の課題 ・コミュニケーションスキル向上に向けた取り組み ー学生の共感能力とコミュニケーションスキルとの関係ー
講師	大重 育美	・乳幼児をもつ父親の育児関与と家庭での不慮の事故との関係性についての研究
講師	稗圃 砂千子	・地域保健に関する研究
助教	吉原 麻由美	・復職支援の実践から見た中小事業所の現状と課題
助教	山口 多恵	・回復期リハビリテーション病棟における転倒・転落リスク予測に関する職種の特徴 ーリスク度判断根拠項目の検討ー
助教	岩永 洋子	・日本人から見たベナン人看護職者の看護実践へ影響する地域文化的要因 ーベナン共和国での青年海外協力隊経験者のインタビューからー
助教	家永 愛子	・看護系大学1年次生の看護技術に対するイメージの変化

### ●栄養健康学科

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	奥 恒行	・難消化性糖質の消化・吸収・発酵・代謝ならびに生体利用に関する研究 老化促進モデルマウスを用いた難消化性糖質の新規な生理作用の探索 難消化性糖質の小腸粘膜透過性に関する研究 サラシアエキス末の $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害作用を利用した血糖上昇抑制食品の開発 アルギン酸分解物の新規機能性の探索に関する研究 ダイフラクトース-Ⅲの最大無作用量に関する研究
教授	正木 基文	・人間・環境系における人の活動と健康に関する研究
教授	綱分 憲明	・身体組成、骨密度、体力と日常生活行動、食生活行動との関係 ・日常生活強度別行動とエネルギー消費量との関係 ・メンタルトレーニングと認知・情動および自律神経機能との関係 ・子どもの携帯・体力および疾走動作に関する研究
教授	上田 成一	・シヨ糖脂肪酸エステルと二酸化炭素による耐熱性カビの制御

職名	氏名	現在の研究のテーマ
教授	西明 眞理	・炊飯米のテクスチャー、食味、官能評価に関する研究 ・ガーリックオイル成分の生体に及ぼす影響
教授	四童子 好廣	・栄養素とくにゲラニルゲラノイン酸(GGA)による癌予防機構に関する研究
教授	武藤 慶子	・母親の食情報と母子間の食生活との関連
教授	樋口 才二	・米粉と混合する原料配合量を変えることによりできる米粉食パンの作成と そのテクスチャーおよび味認識装置の測定
教授	田中 一成	・食品成分による生活習慣病予防
教授	森田 茂樹	・生活習慣病の病態解明 ・チーム医療論 ・電解質と栄養学; ・食欲調節のメカニズムと肥満の関連についての研究
教授	久木野 憲司	・スリムダイエットが脂肪・骨・筋に及ぼす影響に関する研究 ・イカ筋肉組織の光学的透明度が死後に低下する組織学的メカニズムの解明
教授	大曲 勝久	・メタボリック症候群の肝臓における表現型としての脂肪肝における血清ALT値の意義の検討
教授	古場 一哲	・非メチレン系脂肪酸の脂質代謝調節機能について
准教授	駿河 和仁	・「アルコール摂取による脂肪肝発症および抑制に関する基礎的研究」
准教授	富永 美穂子	・煮干し、あごだしのうま味に関する研究, 長崎長なす, 枝折れなすの特性に関する研究
助教	中村 禎子	・難消化性糖質の消化・吸収・発酵・代謝、ならびにプレバイオティクスとして生体に及ぼす影響に関する研究 腸内細菌叢の変化を介した難消化性糖質の新規な生理作用の探索 (老化促進マウスを用いる研究) 難消化性糖質の小腸粘膜透過性に関する研究 難消化性糖質の定量法の検討に関する研究 In vitro における糖質の違いによる腸内細菌代謝産物の特徴と差異についての検討 $\alpha$ -グルコシダーゼならびに $\alpha$ -アミラーゼに対する阻害作用をもつ植物抽出物を食品に添加することによる生体利用性に及ぼす影響に関する研究
助教	田丸 静香	・各種食品素材の機能性に関する研究
助教	山口 範晃	・ビタミンAおよび $\beta$ カロテンによるマウス脂肪細胞3T3L-1細胞の分化・成熟に及ぼす影響
助教	加藤 滋子	・NASHラットモデルにおけるベタインおよびホモシステインの関与の検討

職名	氏名	現在の研究のテーマ
助教	田辺 賢一	<p>・難消化性糖質の消化・吸収・発酵・代謝、ならびにプレバイオティクスに関する研究</p> <p>難消化性糖質の新規な生理作用の探索</p> <p>難消化性糖質摂取による一過性下痢誘発の修復過程における腸内細菌叢の改変に関する研究</p> <p>ヒトにおける難消化性糖質の小腸粘膜透過性に関する研究</p> <p><math>\alpha</math>-グルコシダーゼならびに<math>\alpha</math>-アミラーゼに対する阻害作用をもつ桑葉抽出物を食品に添加することによる生体利用性に及ぼす影響に関する研究</p> <p><math>\alpha</math>-グルコシダーゼ阻害作用を持つアルギン酸小分子分解物の機能性成分の同定</p>

## 長崎県公立大学法人の経営戦略

中央教育審議会が答申した「我が国の高等教育の将来像」7つの機能別分化類型が示されている。本学は其中で、「職業人養成」及び「地域の生涯学習の機会の拠点」、「社会貢献」を本学の最も重要な使命として明確に位置づける。即ち、学部学生の教育に軸足を置き、教員の知と学生の活力をもって、地域の文化・経済の発展に貢献することを使命とする。そのために必要な大学資源を重点的に投入していく。

それを踏まえ本学は、長崎の歴史的・地理的・文化的特色を活かした本学独自の教育を推進する。それは単に「長崎に関することを知る」ということではなく、最終的に学部学科全体として学生の個の確立（発言、提案、議論、そして協働）に資するレベルまで止揚されたものとしていく必要がある。「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育て、社会に送り出すことを目的とした大学運営を行う。世界が向かうグローバル化の中で活躍できる卒業生の輩出を目的とし、教育の自律的質保証に向けた取組を強化していく。ここで最も重要なことは、教職員ひとり一人が組織の一員としての自覚を持ち、各々の役割・責任を最大限の力で全うし、学生の成長に喜びと誇りを感じることである。そのためのガバナンスのさらなる強化にも取り組む。

具体的には、下記の取組を中心に実施していく。これらの取組を通じ、本学をより魅力に満ちた選ばれる大学へと磨き上げていく。その結果、本法人最大の収入源である授業料収入を安定的に確保し、揺るぎない財政基盤を確立していく。

### 1 教育の質保証によるたくましい人材の育成

卒業時に、「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育成するために、教育体系を再構築し、その質の保証を目指す。それが、長崎県立大学の学生像であると、県民のみならず全国に浸透するように、教職員一丸となって取り組んでいく。

- (1) 学生を育てる過程の明確化
  - ・ 学生の受入方針、教育課程の編成方針、学位授与方針の3ポリシーを明確化
  - ・ 組織的・体系的教育の実現による出口の質保証を徹底
- (2) 就業力の養成
  - ・ 学生の就業力（個の確立）を入学時から養成し、高い就職率を維持
- (3) 国際性の向上
  - ・ 学生の意欲を引き出す教育で、高い外国語運用能力の養成
  - ・ 本学学生の留学、本学で学ぶ留学生の倍増

## 2 魅力ある教育の実施による志願者の確保

高校生や保護者の心に響く魅力ある教育を実施する。このために、長崎県の特徴を活かした教育の充実に取り組む。

- (1) 特色ある教育、魅力ある学問分野の創出
  - ・「しま」体験教育プログラム
  - ・「長崎学」科目群の設置
- (2) 教育環境の整備
  - ・佐世保校の建替に伴い、学生が魅力を感じ、足を運びたくなるような新しいキャンパスを整備

## 3 地域貢献の充実・研究の高度化

長崎県から交付される運営費交付金は、授業料と並び本法人の収入の柱であり、県内唯一の公立大学として地域貢献を充実しその存在意義を示すことにより、その安定的確保に努める。また、外部資金についても今まで以上の獲得に努める。

- (1) 長崎県に関連する研究への取組
  - ・「離島」「東アジア」「長崎の地域課題」に関連する研究への重点的な取組
  - ・「アジア・国際戦略」への貢献、シンクタンク機能の強化
  - ・産学官連携の推進
- (2) 研究の高度化による外部資金の増加
  - ・第2期中期計画期間中3億5千万円以上獲得
- (3) 県民への説明責任
  - ・法人運営や教育、研究に関する情報の積極的な公表

## 4 効果的な大学運営の推進

理事長・学長のリーダーシップの下、必要な大学資源の選択と集中を実施するなど、効果的な法人・大学運営を推進する。

- (1) 教育研究等の見直し
  - ・大学として推進する「しまプロジェクト」や「アジア・国際戦略」、「留学支援」等の教育研究への予算の重点配分
  - ・平成28年度までに物件費を1億2千万円削減
  - ・教員評価を全学的に見直し、理事長・学長が積極的に評価

(2) 分離キャンパスの組織運営

- ・分離キャンパスを「禍」とせず、「福と為す」柔軟な組織再編

(3) 効果的な情報発信、大学ブランド力の向上

- ・本学の学生像を意識させるような情報発信
- ・大学のブランド力を高めるための広報戦略

平成23年12月7日

長崎県公立大学法人理事長 清浦義廣

# 長崎県公立大学法人行動規範

平成24年3月27日制定

長崎県公立大学法人の役員及び教職員は、長崎県立大学に課せられた公共性と社会的使命・責任を強く自覚するとともに、法令を遵守し、誠実で高い倫理観の下、公正・公平な業務の遂行により、地域社会の期待に応え、信頼される大学づくりを実現するために、次の行動規範を定め遵守します。

## 大学の理念に基づく人材の育成

大学の理念や目標の実現に向け教育研究を行い、社会から求められる人材の育成に努めます。そのために学習環境を整備するとともに、授業内容や教育課程の改善を通じ、充実した学びの実現に努めます。

## 高い倫理観を持った研究活動

学術研究活動において高い倫理観を保持し、研究成果を社会に提供します。また、研究活動においてあらゆる不正行為を行わないとともに、不正行為が起こらない環境の整備に努めます。

## 地域貢献

大学に課せられた公共性と社会的使命を果たすため、大学が持つ人的、物的、知的資源や組織などを総合的に活用し、地域社会への貢献や連携を行うとともに、県民の生涯教育などに積極的に貢献することにより、開かれた大学づくりを行います。

## 教職協働の実現

教職員が互いの立場と役割を尊重し、協力関係を構築することにより、学生へのサービス向上と大学の理念実現に努めます。

## キャンパス間の融合

キャンパスの枠を超え、全学的な協力関係を構築し、分離キャンパスの有効活用に努めます。

## 法令遵守

法令や社会規範を遵守し公序良俗に反する行為、本法人の名誉と信用を傷つける行為を厳に慎み、諸規程を誠実に守ります。また、業務上知り得た情報は適切に管理するとともにその保持に努めます。

## 健全な職場環境の構築

健全で安全な職場環境を整備するとともに、教職員及び学生の人格・人権を尊重し、いかなる差別・ハラスメントも行いません。

## 資産等の適切な管理

資産及び外部資金を適正に管理し、その使用にあたっては一切の不正な行為は行いません。

## 情報公開

情報を積極的に公開し、県民への説明責任を果たすとともに、大学に対する理解と信頼を確保することに努めます。

## 環境への配慮

環境保全や資源保護を心掛けた活動を通じ、限られた地球資源の有効活用に努めます。



用 語	解 説
アジア・国際戦略	長崎県が策定した戦略。成長著しい東アジアの最前線に位置し、これまでの深い交流の歴史の中で築いてきた友好・信頼関係を土台として、アジアを中心に海外の活力を取り込み、長崎県の経済活性化に結びつける。
アドミッション・ポリシー	入学者受入方針。 大学の理念・目的等に応じて、受験生に求める能力、適性等について大学の方針を示したものの。
eラーニング	電子ネットワークなどを利用した教育、研修。 WBT(Web Based Training)や distance learning と呼ばれる。
AO入試	AO入試：アドミッション・オフィス入試。 アドミッションポリシー（大学が求める学生像）に基づき、学力では量れない受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識などを多面的、総合的に評価し判定する入試。
SD	Staff Development の頭文字。 事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組。
SPI	Synthetic Personality Inventory の頭文字。 能力面と性格面の2つの側面から総合的に人材の資質を測定・評価する総合適性検査の一種であり、リクルート社が開発したもの。現在では、SPI という名称が適性検査を表す言葉として定着している。
FD	Faculty Development(ファカルティー・ディベロップメント)の頭文字。 大学等の理念・目標や教育内容・方法を改善するための組織的な研究・研修などの取り組み。 具体例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法に関する研究会の開催、新任教員のための研修会の開催など。
FP(ファイナンシャル・プランニング)技能検定	顧客の資産に応じた貯蓄・投資等のプランの立案・相談(ファイナンシャル・プランニング)に必要な技能に関する試験。レベルは1～3級までであり、2級はビジネスでは必須と言われるレベルで、金融業界を中心に企業ニーズも高く、昇格要件とされるケースもある。
遠隔授業	インターネットなどの情報通信システムを利用して、離れた場所を結んで行われる授業形態。
オフィスアワー	教員が曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその曜日・時間には自由に教員研究室を訪れて質問・相談等を行うことができる制度。
科学研究費補助金	人文・社会科学から自然科学まで、あらゆる分野における優れた独創的・先駆的な研究を進展させることを目的とする国庫の研究助成費。 文部科学省、厚生労働省、日本学術振興会により審査・交付される。
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーで定めた学修内容を習得するためのカリキュラムを体系的に示したものの。

用語	解説
キャリア・ポートフォリオ	授業や学習活動の成果であるレポートや論文、課外活動での経験や身につけたスキルなどを記録保管するファイルのこと。これらを蓄積・保存し、振り返っていくことで、自分の将来を考えることに役立てることができる。また、履歴書やエントリーシートを書くとき等の材料としても活用することができる。
コンソーシアム	連合体、共同体。
シーズ	大学がもつ「技術、ノウハウ、アイデア、人材、設備」などを指す。
GPA	Grade Point Averageの頭文字。 GPAは、アメリカ等の大学で一般的に用いられている成績評価法の一つで、学生の学業成績を客観的に計ることができるものとして、大学院進学や留学時の参考資料として活用されている。 具体的には、授業科目ごとの成績評価を5段階（A、B、C、D、F）で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0のようにグレード・ポイントを付与し、この単位あたりの平均を算出する。 本学では、学生の卒業時におけるレベル確保等のために、成績評価基準にGPAを導入し、履修指導等に活用している。
「しま」体験教育プログラム	島嶼県である長崎県の特徴を活かし、また長崎県の公立大学として「しま」を第三のキャンパスとして位置づけ、学生を在学期間中（4年間）に最低一度は「しま」を訪問させ、現地の生活や人との交わりの中で、実践的な学習を体験させる本学独自のプログラム。
就業力	平成23年度から施行される大学設置基準では、「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力」と定義されている。
シラバス	各授業科目の詳細な授業計画（一般に、授業名、担当教員名、講義目的、各回毎の授業内容、成績評価方法・基準などが記載されている。）
Semester制	1学年複数学期制の授業形態。 1つの授業を1年間通して実施する「通年制」の前・後期などとは異なり、1つの授業を学期（Semester）毎に完結させる制度。 1学期の中で少数の科目を集中的に履修することで、学習効果を高めることができる。
大学コンソーシアム長崎	個別に取り組むと手間や費用がかかる事業等を共同で行うため、長崎県内の大学等が集まった組織。現在は、大学間で単位互換を行う「NICEキャンパス長崎」に主に取り組んでいる。
中国語検定	日本中国語検定協会が実施する中国語能力の検定試験で、1級から準4級までの6段階で試験が行われている。 2級の認定基準は、複文を含むやや高度の中国語の文章を読み、3級程度の文章を書くことができ、日常的な話題での中国語による会話が行えること。 3級の認定基準は、中国語の一般的事項をマスターしていて、簡単な日常会話ができ、基本的な文章を読み、書くことができること。
チューター制	在学生、教員等が学生に対して、学習、生活上の精神的サポートとして、支援、助言を個別に行う制度。主に外国人留学生に対して個別の課外授業を行うなど、留学生の学習、研究効果の向上を図る制度。
ディプロマ・ポリシー	卒業時に学生が獲得すべき能力や態度、知識などを示したもの。

用語	解説
ティーチングアシスタント（TA）	優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実験・実習等の教育補助業務を行わせ、大学院生の教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当てを支給し、大学院生の処遇改善の一助とすることを目的としたもの。
TOEFL	英語を母語としない人が、主にアメリカの大学・大学院に出願する際に、受験が義務付けられている英語力判定テストの呼び名で、310～677点の間のスコアで算出する。留学に必要なスコアは、大学・学部等によって異なるが、一般に500～550点以上とされている。
TOEIC	英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストで、10～990点までのスコアで評価をするもの。一般に、730点以上で、どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えているとされる。
長崎県立大学活性化プロジェクト	本学や地域の活性化につながる学生の自主的な活動を促すことを目的に平成19年度に創設した学生支援制度。採択プロジェクトに対しては奨励金を助成している。
長崎“新生”産学官連携コンソーシアム（NRC）	産学官関係団体の連携を強化し、産学官の研究開発等を推進することにより、持続的・発展的にイノベーションを創出するシステムを構築し、科学技術による長崎県の産業振興及び県民生活の向上に寄与することを目的として、平成22年11月に設立されたもの。長崎県、長崎大学、長崎総合科学大学、長崎県立大学、佐世保工業高等専門学校、長崎県商工会議所連合会、長崎県商工会連合会、長崎県中小企業団体中央会、長崎県産業振興財団の9機関が参加している。
任期制	任期を付して教員を任用する制度。 現在は、「大学教員等の任期に関する法律」（平成9年8月25日施行）により、「先端的、学際的または総合的な教育研究」等の場合に任期を定めることができるとされている。 なお、外国人教員については、「国立又は公立の大学における外国人教員の任用等に関する特別措置法」により、任期を定めて任用することができる。とされている。
ハラスメント	嫌がらせ。セクシャルハラスメントは性的嫌がらせ。
販売士検定	販売員としての素養やサービス向上を目的に日本商工会議所が実施する検定試験。 レベルは1～3級までであり、2級は売場の管理者クラスのレベルで、店舗管理に不可欠な従業員の育成や指導、仕入や在庫の管理といった知識が必要。
ピア・サポート	「Peer」とは“仲間”、「Support」とは“支える、援助する”と言う意味。在学生が新入生を仲間として援助し、支える活動。
ラーニング・commons	自主的、自立的な学習活動（ラーニング）を支援するため、図書館が所蔵する図書や雑誌と、電子ジャーナルやデータベースなどの新しい電子資料の双方を自由に利用できるネットワークの環境が整った共有空間（commons）。

用 語	解 説
リカレント教育	生涯教育構想の1つで、一度社会に出た者の学校への再入学を保証し、学校教育と社会教育を循環的にシステム化したもの。
リサーチアシスタント	優秀な大学院生を研究補助者として参画させ、研究活動の効果的推進、若手研究者としての研究遂行能力の育成を図るとともに、これに対する手当てを支給し、経済的支援の一助とすることを目的としたもの。大学院博士課程在学者を対象とするのが通例。
リメディアル教育	大学教育を受ける前提となる基礎的な知識等についての教育をいう。補習教育とも呼ばれる。